未来に拓く街

岩瀬駅前土地区画整理事業のあゆみ

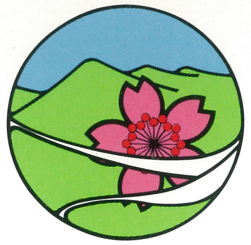
岩瀬駅前土地区画整理組合

未来に拓く街
岩瀬駅前土地区画整理事業のあゆみ

未来に拓く街

岩瀬駅前土地区画整理事業のあゆみ

岩瀬町シンボルマーク



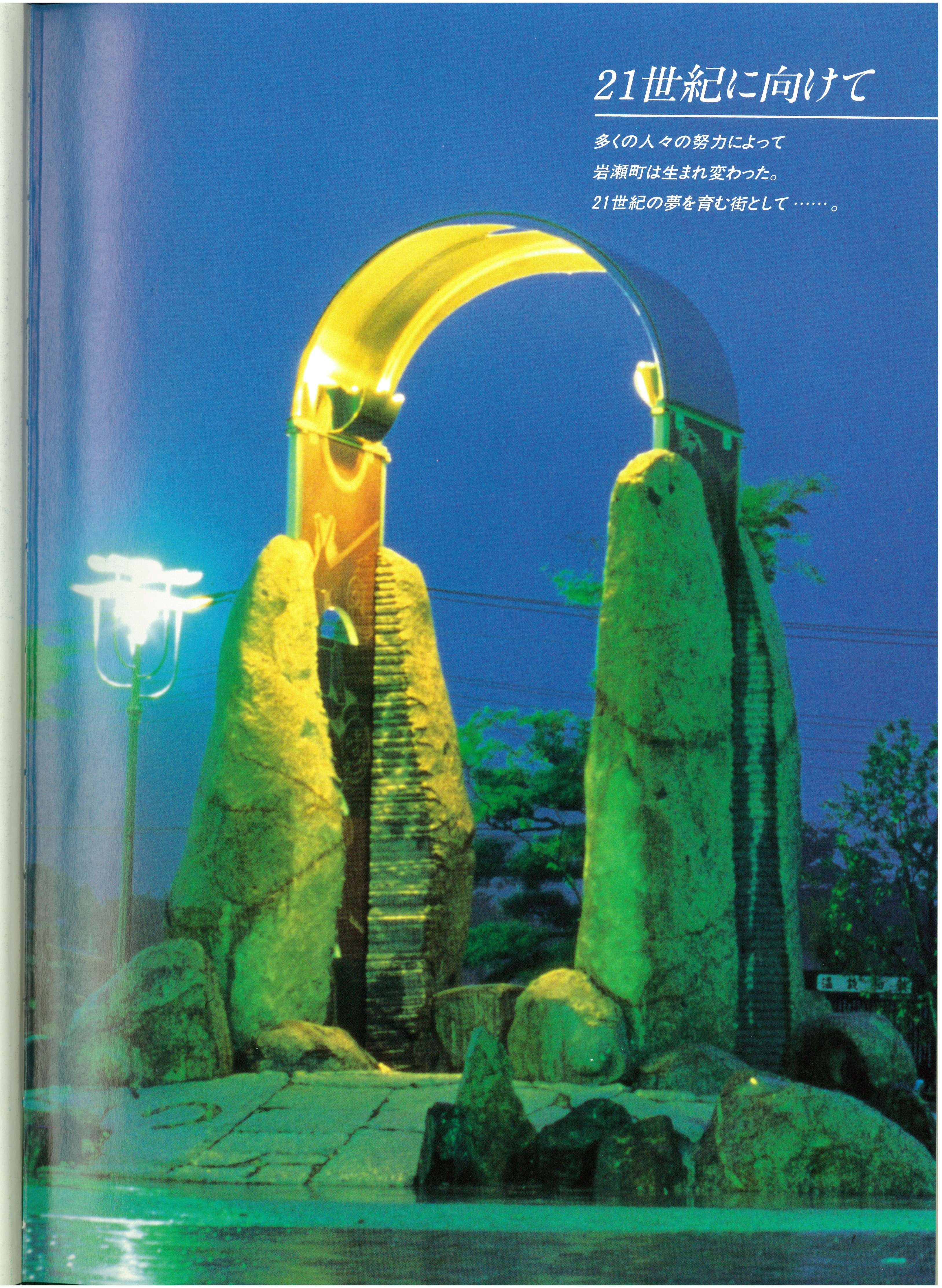
（デザイン理由）

アウトラインの円は地球の球体で、山並は加波山・羽黒山・筑波山を表している。

山の下の空間は農業・産業の発展の沃地を表し、桜は町の花であり桜川は古きより郷土に広がる文化の象徴で、球である全体の上に帯状に連ね、動的にアレンジしている。それは、広がる文化をより強調している。

岩瀬町を含めたこの地域一帯は、
花崗岩である御影石の産地として
全国的に名高い。
岩瀬駅前土地区画整理事業により
整備された明日香公園は、
その中心に位置しており、
“明日香”は万葉の巨石文化発祥の
地名に由来している。
四本の大石は区画整理事業盛土材の
確保地で産出されたもので、
左右の四つの彫刻のテーマは
本町の歴史・生物・産業・収穫を表し、
さらに協調と平和に輝くようにと願って、
制作したものである。

平成２年　３月　竣工
制作者　浅賀　正治

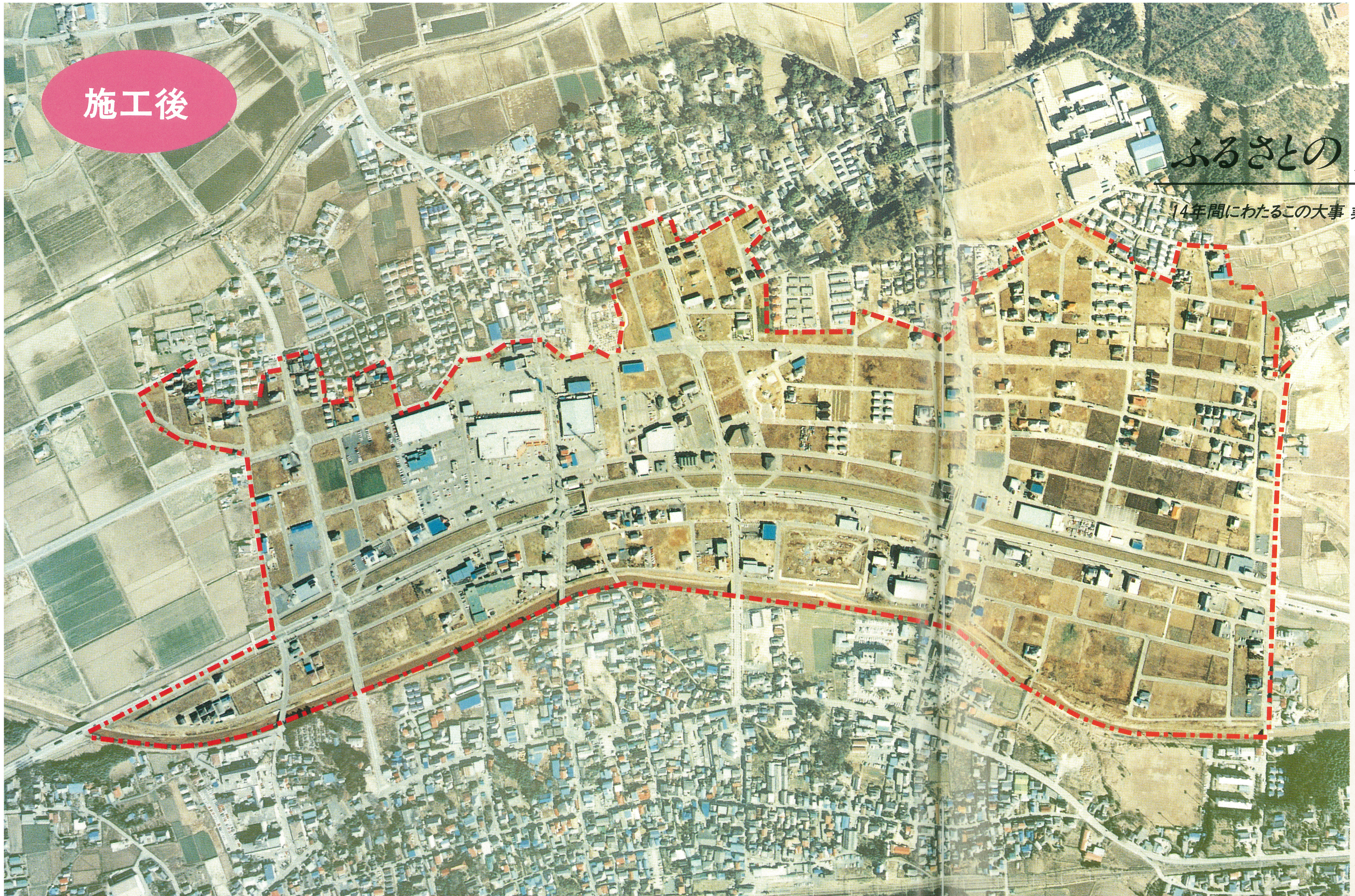


21世紀に向けて

多くの人々の努力によって
岩瀬町は生まれ変わった。
21世紀の夢を育む街として……。

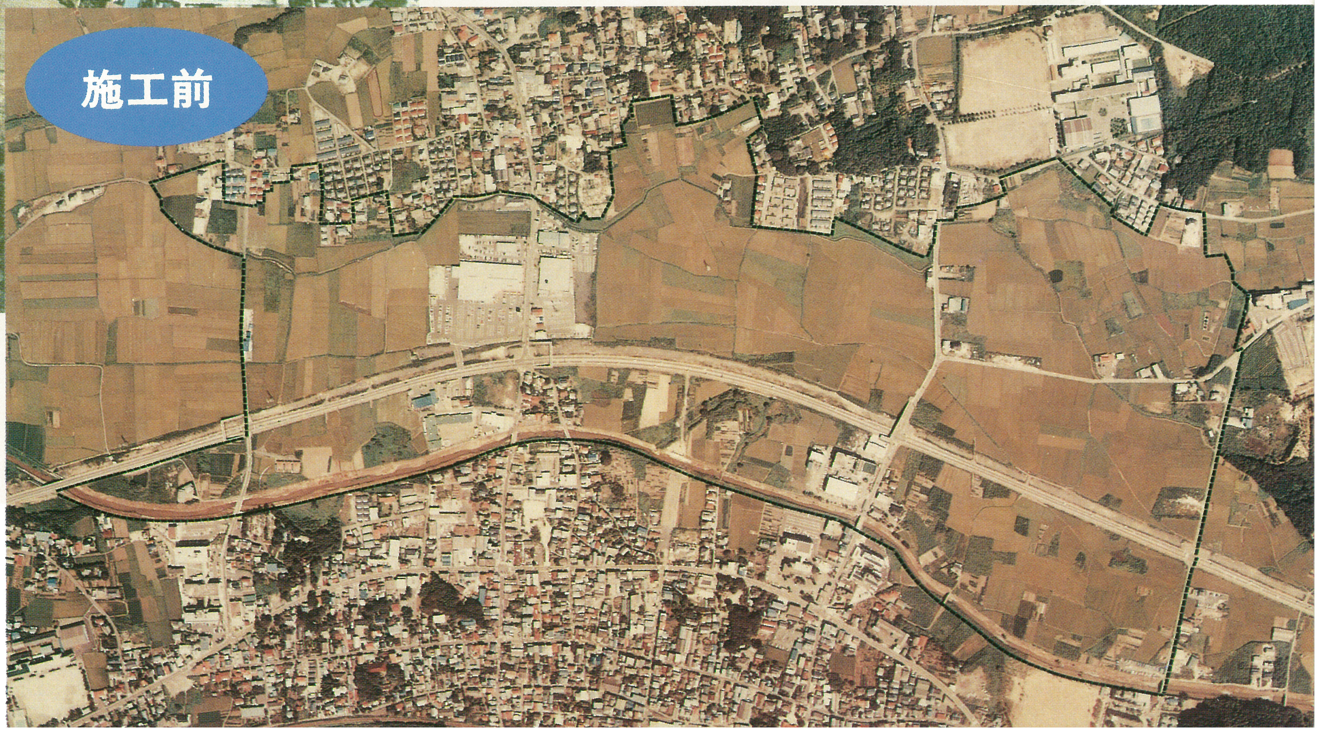
ふるさとの 未来を担う街づくり

14年間にわたるこの大事業は、さらなる飛躍へのスタートでもある。



▲平成2年3月撮影

▼昭和57年10月撮影



発刊のことば

岩瀬駅前土地区画整理組合
理事長
天賀谷　三男

このたび「岩瀬駅前土地区画整理事業」が完了し、組合を解散するに当たり、記念誌「未来に拓く街」を刊行して事業の回顧記録といたしました。

本事業は、昭和57年８月１日に岩瀬駅前土地区画整理組合を発足させましてから９年余の歳月と、総事業費約48億７千万円を投じ、ここに完成いたしました。後世に受け継ぐ、豊かな設備・環境をもった新しい街が誕生したことは、組合員各位はもとより、本事業に関与されたすべての人々にとって、等しく喜びとするところであります。

顧みますと、事業完成までのさまざまなドラマが想い出されます。当地域一帯は昭和52年５月に市街化区域に指定され、その後、国道50号バイパスが開通したにもかかわらず、土地利用は思うにまかせず、土地所有者として思案の日々を送っていました。しかし、町と地権者による度重なる話し合いを通じ、生活環境が整備された良好な街づくりを図ってゆくには、土地区画整理事業による開発が最も望ましいという結論に達し、関係する地権者221名の同意を得て、77.1ヘクタールの開発事業を推進することに決定いたしました。

機能的な街路、憩いの場である公園等々、完成した街の基盤は、まさに快適な暮しを約束するものです。また、この地区と隣接している土取り跡地は、町が進めています総合運動公園の用地として生きかえり、地域住民のコミュニティ活動の核になるものと思います。この恵まれた新興の地に生活の場を求められた新しい町民の皆様が、力を合せて明るい街づくりに励まれ、これら都市基盤や諸公共施設を生かすにふさわしい未来を築かれることを期待してやみません。

終りに、本事業施行に当たって終始絶大なるご指導、ご支援を賜りました県及び町当局、そして事業推進委員会発起から今日までの14年有余の間、一意専心、事業完成に努力していただきました役員はじめ組合員各位の理解あるご協力に対しまして心から感謝とお礼を申し上げ、竣工記念誌発刊のご挨拶といたします。

刊行に寄せて

岩瀬町長

川那子　明三

このたび「岩瀬駅前土地区画整理事業」の完成と記念誌の発刊を心からお祝い申し上げます。

当地区は、十数年前まではその大半が優良農地の水田地帯でありましたが、昭和52年5月の都市計画線引き決定に伴い、市街化区域の指定を受けました。

町におきましても、懸念される当地区のスプロール化防止策を検討する中で、地域の皆様と協議を重ねましたところ、各位の新しい街づくりに対する熱意とご理解が高まり、組合施行を骨格とする土地区画整理事業として新市街地を整備してゆくことで合意が得られ、以来、14年の歳月を経て、めでたく完成したものです。

この間幾多の困難を克服された地権者の方々をはじめ、ご協力くださいました町民の皆様のご苦労がここに実り、誠に喜びにたえません。

本町始まって以来の大事業が無事に完成いたしましたのも、理事長・役員の皆様はじめ組合員各位が一致団結し、一丸となって事業遂行に邁進されたからこそであり、関係各位のご苦労に対し、心から敬意を表する次第であります。

本事業の完成に先がけ、シンボルの一つでもあり、全国でも初めての試みである、全長約1キロメートルに及ぶラブロード50「石匠のみち」が一足先に完成し、すでに供用いたしております。

加えて、平成2年には本町に北関東自動車道路ルートとインターチェンジの設置が決定し、さらには町民の健康づくりとレクリエーションの場となる総合運動公園整備も進み、現に温水プールがオープンいたしました。

こうして、本事業完成に合わせて各種の整備事業も着々と進み、本町の発展は約束されているといっても過言ではありません。

このような町勢の進展に対応するため、今後も地域の発展と住民福祉の向上を基本理念として、豊かで活力に満ちた街づくりを目指し、行政を推進させてまいる所存であります。

どうか、関係各位におかれましては、今後とも町政各般にわたり、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、関係各位のますますのご発展とご健勝をお祈り申し上げ、お祝いのご挨拶といたします。

岩瀬町議会議長

栗林　鉄太郎

岩瀬駅前土地区画整理組合各位の長い間のご苦労が実を結び、ここにめでたく土地区画整理事業が完成いたしましたことに対し、心からお祝いを申し上げます。

「岩瀬駅前土地区画整理事業」は本町最大規模の事業として、また、町の発展を担う要として、各方面より注目されてまいりました。結果は見事与望に応えたもので、完成された本事業に対しては県内外の高い評価を受け、当組合は街づくりに大きな功績を残した団体として建設大臣賞を授与される栄に輝いております。

顧みますと、土地区画整理推進委員会が発足したのは、ちょうど第二次オイルショックの直後であったため、事業化の推進には相当のご決断が必要であったと思われますが、並々ならぬご決意で事業遂行に当たられた皆様の先見の明、そして郷土を思う心には敬服するほかございません。土地区画整理事業の基本は“人の和”であるといわれておりますが、まさに当組合は一致団結して事業に取り組まれ、街路公園や公共施設の整った、良好な住環境を生み出されたわけであります。改めて、天賀谷理事長、仁平初代理事長以下各役員及び組合員各位のご努力に対し、その労をねぎらうとともに、敬意を表する次第であります。

区画整理事業の完成は、調和のとれた心豊かな住みよい街づくりの第一歩です。今後とも地域の皆様の参加を得ながら、快適な街づくりを共に推進してまいりたいと存じます。

ここに、各位のご健勝と地域の発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

刊行に寄せて

茨城県議会議長
長谷川　大紋

このたびの「岩瀬駅前土地区画整理事業」の完成を心からお慶び申し上げます。

岩瀬町の玄関口ともいうべき、当駅前地区がこのように立派に整備されましたことは、地元県議会議員として、また住民の一人として誠に慶祝に堪えません。

今日までの町当局はじめ地元の皆様のご尽力、ご協力に対しまして衷心より敬意と感謝の意を表する次第であります。

本事業は、地元地権者をはじめ住民の方との、地域振興に寄せる並々ならぬご決意により完成したものであり、周辺市町村の注目の的となっておりました。

先に完成いたしました国道50号バイパス沿いのラブロード50「石匠のみち」や大型店舗の立地とともに21世紀に向かって豊かで明るい街づくりを進める岩瀬町の今後のますますの発展が期待できるすばらしい事業であります。

どうか皆様方には、郷土岩瀬のさらなる発展のためにより一層のお力添えを賜りますよう、心からお願い申し上げまして、お祝いの言葉といたします。

岩瀬駅前土地区画整理組合
初代理事長
仁平　一夫

「岩瀬駅前土地区画整理事業」が完成し、誠に喜びに堪えません。

かつて当地区は、岩瀬駅前市街地と元岩瀬集落間の、優良な水田地帯でありました。

この土地が一新され、快適な住宅地に生まれ変わり、さわやかな公園やコミュニティ道路が明日の町民を育むのかと思うと、実に感無量であります。

思えば今から14年前、第一回の区画整理事業推進委員会を開いて本事業がスタートして以来、組合設立、また実施設計作成のために、関係する機関と協議を重ね、さらには資金繰りにも奔走するなど、準備に明け暮れる毎日でした。

私は区画整理推進委員会会長を３年、組合理事長を５年間努め、後事を天賀谷理事長に託して奉職を辞しました。

その後、役員はじめ関係各位の一致団結のもと、幾多の困難を克服され、今日のすばらしい成果を実らせたことに、心からお喜びを申し上げる次第です。

事業完成の陰では、施行に際しまして終始ご指導・ご鞭撻くださいました県及び町当局をはじめ、関係各位の温かいご支援と、工事施工に当たられました建設業各位の、卓越した技術と献身的なご協力をいただき、遅滞なく工事を完成させることができましたこと、ここに深く感謝申し上げます。

終りに、地域のますますの発展と、組合員各位のご健勝を心より祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

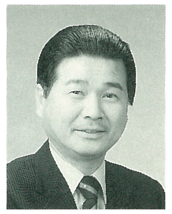
役員のみなさん

理事長
天賀谷三男

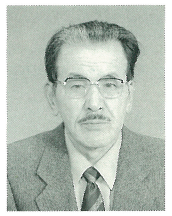
副理事長
大山松重

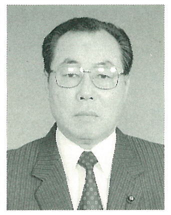
副理事長
渡辺義男

理事
太田 孝


理事
川那子明三

理事
大久保藤一

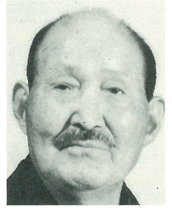

理事
仲田茂雄


理事
篠崎 宏

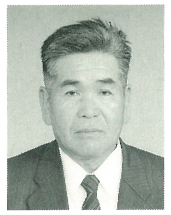
理事
大和田勝馬

理事
田中和夫

理事
仁平 昇

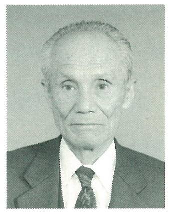

理事
友常孝一郎

理事
萩原 恵


理事
天賀谷敦禄

(元) 理事
川俣 正

理事
㈲大和田一夫


初代理事長
仁平一夫

監事
榎戸元司

監事
五月女芳郎

監事
天賀谷衛

監事
(故)渡辺重信

評価員
仙波朝行

評価員
秋山 直

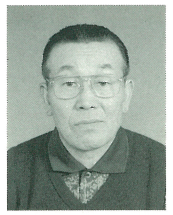
評価員
広岡 淳

総代のみなさん

総代
﨑原善髙

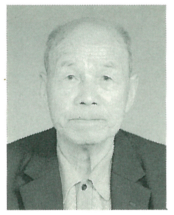
総代
仲田 博

総代
桜井 卓

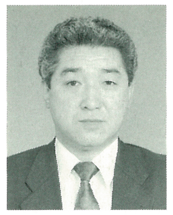

総代
佐藤善三郎

総代
榎戸平三朗

総代
小森 毅


総代
斉藤 茂

総代
伊東博雄


総代
天賀谷静男

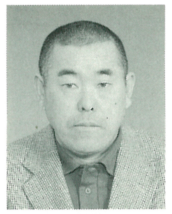
総代
山田敏次

総代
仲田源太郎

総代
藤田一成

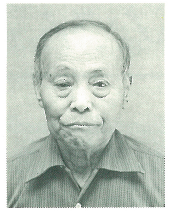
総代
仲田 実

総代
若林由蔵


総代
仁平定也

総代
天賀谷豊子

総代
荒木 清

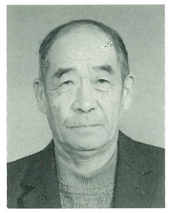

総代
上野恒男

総代
若林正美

総代
田山 清

総代
萩原 孝

総代
青木 勇


総代
佐藤義男

総代
仁平悦司

総代
大桶信一

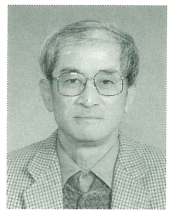
総代のみなさん

総　代
仲田満男

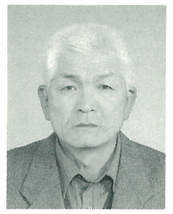
総　代
榎戸平八

総　代
友常昌治

総　代
藤田清視


総　代
仲田 昭

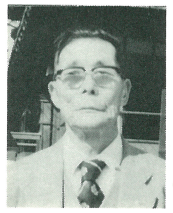
総　代
伊東 功


総　代
太田昭三

総　代
吉原儀一

総　代
仲田信王

総　代
(故)榎戸さかり


総　代
(故)天賀谷正雄

総　代
(故)天賀谷英男

総　代
(故)小森佐市郎

総　代
(故)仁平知信

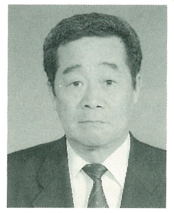
歴代町長・事務局のみなさん

元町長
(故)中田清一

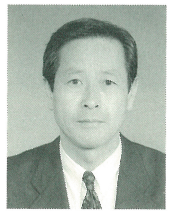
前町長
金田 貢

事務局
(元都市計画課長)
太田 孝

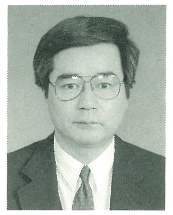
事務局
(前都市計画課長)
鈴木 勝


事務局
(都市計画課長)
土佐郁夫

事務局
(課長補佐)
富田英身


事務局
(主査兼係長)
滝川義近

事務局
(主任)
安達 徹


(前)事務局
山田澄男

事務局
(組合職員)
小松崎まち子

組合員のみなさん〈換地処分(平成4年3月)時〉

あ

青木 勇
青木 湖三郎
青木 茂
青木 清次郎
青木 弘
青木 良一
秋山 富子
秋山 ふく
麻尾 勇次
浅野 良司
安達 一雄
安達 和子
安達 繁
天賀谷 英二
天賀谷 きい
天賀谷 謹二郎
天賀谷 静男
天賀谷 翠
天賀谷 敦禄
天賀谷 豊子
天賀谷 信好
天賀谷 衛
天賀谷 三男
阿部 能久
雨谷 栄子
雨海 輝男
荒木 貞義
荒木 清
荒木 富義
荒木 徳夫
荒木 司
荒木 努
荒木 良和
粟嶋 静子

い

飯島 彰
池田 梅丸
池田 菊治
石崎 栄泉
伊東 功
伊東 克浩
伊東 利通
伊東 農夫太
伊東 博雄
伊藤 跡子
稲川 宏
井上 タセ
岩本 利夫

う

上野 昭
上野 正三
上野 誠一
上野 恒男
上野 登
上野 發代
上野 義男
上野 芳男
上野 洋子

え

榎戸 亀次郎
榎戸 九助
榎戸 さかえ
榎戸 武彦
榎戸 忠作
榎戸 平三朗
榎戸 平八

お

大桶 信一
大久保 藤一
大島 せつ
太田 斐
太田 いわの
太田 一吉
太田 きよ
太田 きよ子
太田 孝
太田 周三
太田 昭三
太田 宋庫
太田 照子
太田 義一
大塚 貞一郎
大山田 一郎
大山 佳功
大山 松重
大和田 朗
大和田 勝馬
大和田 正一
大和田 保
大和田 忠
大和田 陽
大和田 由紀子
荻原 幸子
荻原 勅彦
落合 正美
落合 有里
小野 弘美
織茂 明生
織茂 良治

か

笠原 しつ
風見 辰夫
片貝 康夫
金澤 恵美子
金澤 健一
金澤 幸一
軽部 圭一
河合 歌子
河合 利通
河合 博洋
川口 貢一
川那子 明三
川那子 喜一
川那子 昌三

き

木村 喜一
木村 芳夫

く

口町 和夫
郡司 勝子
郡司 亮
黒子 朝光
黒古 福四郎

こ

小薬 チカ
小杉 裕
小仁所 司
小林 邦親
小林 さく
小林 照子
小森 昭男
小森 考司
小森 佐市郎
小森 正夫

さ

斉藤 茂
斉藤 善一郎
斉藤 敬
斉藤 善夫
酒井 作衛
桜井 卓
桜井 ひで
佐藤 久一郎
佐藤 さい
佐藤 善三郎
佐藤 親
佐藤 昇
佐藤 祐一
佐藤 陽一
佐藤 義男

し

篠崎 恭子
篠崎 宏

組合員のみなさん

清水 貞夫
清水 正司

す

鈴木 伸二
鈴木 孝和
鈴木 利雄
鈴木 守
鈴木 由利子
杉山 祐樹
須藤 義雄

そ

五月女 芳郎
袖山 貞臣
袖山 英男
袖山 泰子

た

高木 康喜
高田 英司
高橋 厚子
高橋 あや子
高橋 晟
高橋 良治
高松 信雄
滝川 忠孝
滝田 薫
竹井 修二
武井 福右衛門
武井 要範
田中 和夫
田中 勉
田山 清
田山 恭子
田山 寿康
田山 みのり
田山 祐子
田山 嘉彦

つ

塚田 倖三
坪井 弌躬

て

出口 勝

と

友常 清美
友常 倉司
友常 孝一郎
友常 茂
友常 昌治
外山 照美
豊口 勝治

な

中沢 豊
仲田 昭
仲田 源太郎
仲田 茂雄
仲田 仙一
仲田 敬
仲田 敏王
仲田 富夫
仲田 信王
仲田 博
仲田 文雄
仲田 まき
仲田 満男
中野 赳
中野 實
中山 守一
永瀬 英男
永田 フミ
生井 友一

に

仁平 悦司
仁平 健一
仁平 サタ
仁平 定也
仁平 すい
仁平 清一
仁平 藤吾
仁平 昇
仁平 弘道
仁平 眞
仁平 真
仁平 誠
仁平 正道
仁平 勝
仁平 方子
仁平 八千代
仁平 和
仁平 よね

の

野村 誠司
野村 忠志

は

長谷川 智
長谷川 守
長谷川 浩子
穐原 あさ子
萩原 収
萩原 きよ子
萩原 恵
萩原 邦則
萩原 孝
萩原 なつ
萩原 洋司
穐原 善髙
橋本 慶則
蓮田 博
浜野 聡
原 郷輝
早川 美津雄
早瀬 博

ひ

菱沼 郁雄
平塚 次夫

ふ

深谷 和海
深谷 憲三
深谷 茂
深谷 清治
福田 昭
福田 壽子
藤井 昭治
藤崎 文隆
藤田 貞次
藤田 孝行
藤田 武

ほ

堀 金作
堀江 憲三
堀川 純一
本田 多一郎

ま

槇野 昌
真崎 晃
真崎 薫

み

三宅 正二

む

村上 静

も

師岡 泰雄

や

谷島 誠
谷島 光治
安沢 輝夫
谷中 たか
谷中 隆
谷中 ツヤ
谷中 元造
柳川 早苗
柳川 義裕
山形 マサ子
山田 敏次
山田 平次郎

よ

横倉 琴義
横倉 元信
横田 トミ子
横田 衛
横田 森男
横谷 英司
横谷 正美
吉原 儀一
吉原 尚志

り

李 景善
李 日変

わ

若林 和男
若林 正美
若林 由蔵
若鍋 和子
渡辺 いつ
渡辺 栄一
渡辺 堯之
渡辺 松司
渡辺 義男
渡辺 好元

◆

法人

青木重機運輸㈲
茨城県信用組合
岩瀬町土地開発公社
㈱カンセキ
㈱関東銀行
㈱萩原建設
㈱広田建材店
㈱ヤマダヤ
㈱ル・ロア
大神宮
東京電力㈱
筑宝産業㈱
㈲慧鴻
㈲神山商店
㈲クスリあらい
㈲郡司材木店
㈲笹口石材
㈲日栄商事
㈲野間商店
㈲羽黒字彫興業
㈲モンドール製菓
建設省
茨城県
岩瀬町
マルカワ商事㈱

◆

借地権者

石井 幹
石川 弘
岩本 龍寛
内桶 宰子
㈱カスミストアー
小泉 マリ
佐野 正道
杉山 良雄
高橋 孝三
土田 美代子
仲見川 光一
中村 弘治
藤田 寿
藤田 正好
宮永 貴美代

目　次

第1部　事業のあゆみ……17

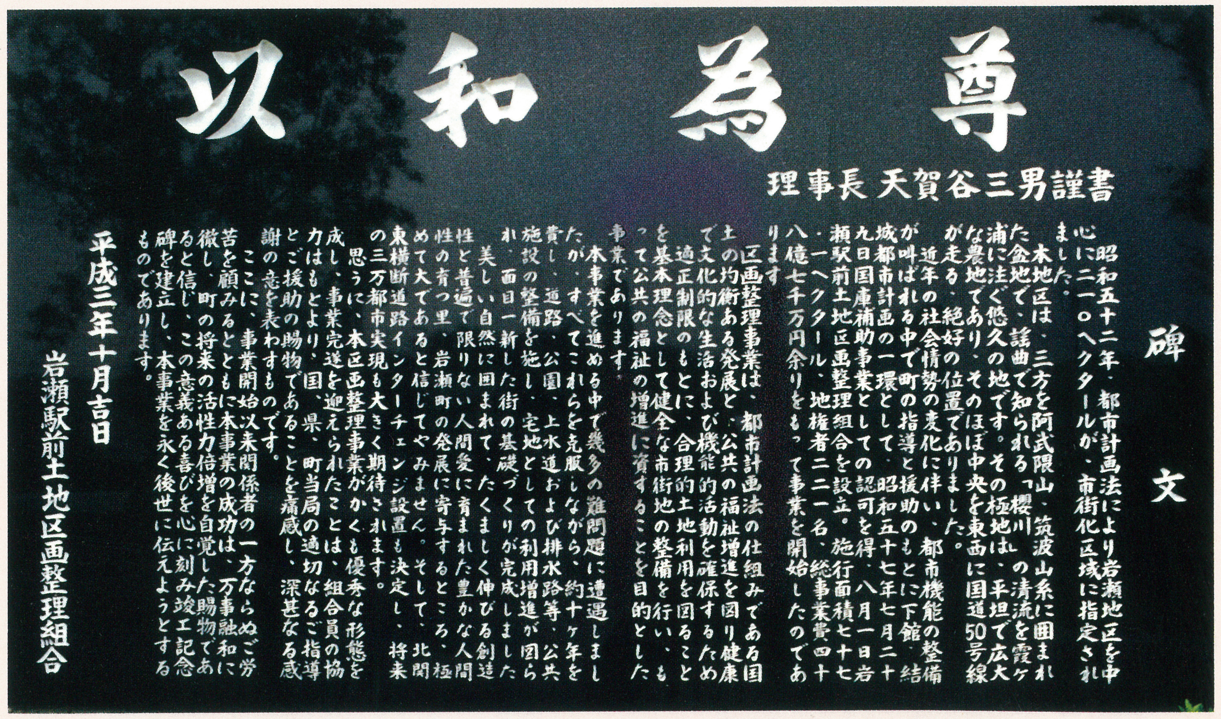
1 土地区画整理事業のはじまり……18
2 調査・測量が始まる……20
3 事業のスタート……21
4 本工事着工……26
5 進む造成……28
6 道路が、水道が……　……30
7 基盤整備も大詰めを迎え……32
8 完成・大臣表彰・そして竣工式……34

第2部　新しい街、岩瀬……35

1 ラブロード50　石匠のみち……38
2 コミュニティ道路……40
3 明日香公園とモニュメント……42
4 緑豊かな住宅……44
5 21世紀の“岩瀬”……46
岩瀬町立総合運動公園……48

座談会　岩瀬駅前土地区画整理事業を終えて……50
史蹟と観光　磯部桜川公園……56
上野沼やすらぎの里……58
富谷観音……59
資　料　岩瀬駅前土地区画整理事業　組合設立までの経緯……60

第１部
事業のあゆみ



以和為尊

理事長 天賀谷三男謹書

碑　文

昭和五十二年、都市計画法により岩瀬地区を中心に二一〇ヘクタールが、市街化区域に指定されました。

本地区は、三方を阿武隈山、筑波山系に囲まれた盆地で、謡曲で知られる「櫻川」の清流を霞ヶ浦に注ぐ悠久の地です。その極地は、平坦で広大な農地であり、そのほぼ中央を東西に国道50号線が走る、絶好の位置でありました。

近年の社会情勢の変化に伴い、都市機能の整備が叫ばれる中で町の指導と援助のもとに下館・結城都市計画の一環として昭和五十七年七月二十九日国庫補助事業としての認可を得、八月一日岩瀬駅前土地区画整理組合を設立。施行面積七十七・一ヘクタール、地権者二二一名、総事業費四十八億七千万円余りをもって事業を開始したのであります。

区画整理事業は、都市計画法の仕組みである国土の均衡ある発展と、公共の福祉増進を図り健康で文化的な生活および機能的活動を確保するため適正制限のもとに、合理的土地利用を図ることを基本理念として健全な市街地の整備を行い、もって公共の福祉の増進に資することを目的とした事業であります。

本事業を進める中で幾多の難問題に遭遇しましたが、すべてこれらを克服しながら、約十ヶ年を費し、道路、公園、上水道および排水路等、公共施設の整備を施し、宅地としての利用増進が図られ、面目一新した街の基礎づくりが完成しました

美しい自然に囲まれて、たくましく伸びる創造性と普遍で限りない人間愛に育まれた豊かな人間性の育つ里、岩瀬町の発展に寄与するところ、極めて大であると信じてやみません。そして、北関東横断道路インターチェンジ設置も決定し、将来の三万都市実現も大きく期待されます。

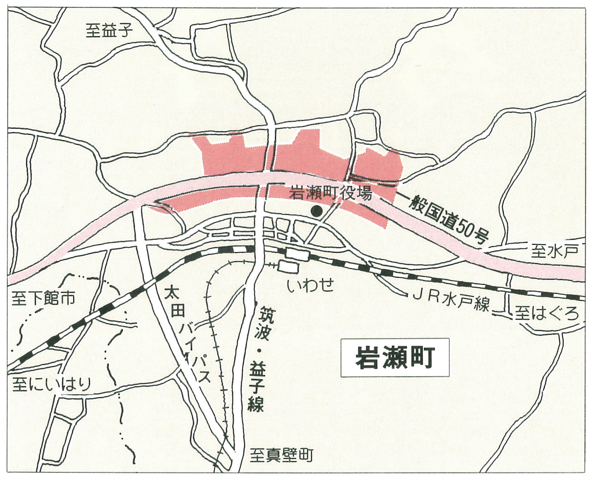
思うに、本区画整理事業がかくも優秀な形態を成し、事業完遂を迎えられたことは、組合員の協力はもとより、国、県、町当局の適切なるご指導とご援助の賜物であることを痛感し、深甚なる感謝の意を表わすものです。

ここに、事業開始以来関係者の一方ならぬご労苦を顧みるとともに本事業の成功は、万事融和に徹し、町の将来の活性力倍増を自覚した賜物であると信じ、この意義ある喜びを心に刻み竣工記念碑を建立し、本事業を永く後世に伝えようとするものであります。

平成三年十月吉日

岩瀬駅前土地区画整理組合

1 土地区画整理事業のはじまり —21世紀への架橋—


至益子
岩瀬町役場
一般国道50号
至水戸
いわせ
JR水戸線
至はぐろ
至下館市
太田バイパス
筑波・益子線
岩瀬町
至にいはり
至真壁町

岩瀬駅前地区の概要

本地区は、岩瀬町のほぼ中央に位置し、本町中心市街地である岩瀬地区の北部と旧集落である元岩瀬地区の南部で構成され、東西方向に約1.5㎞、南北方向に約0.5㎞の、農地を主体とした地区であった。

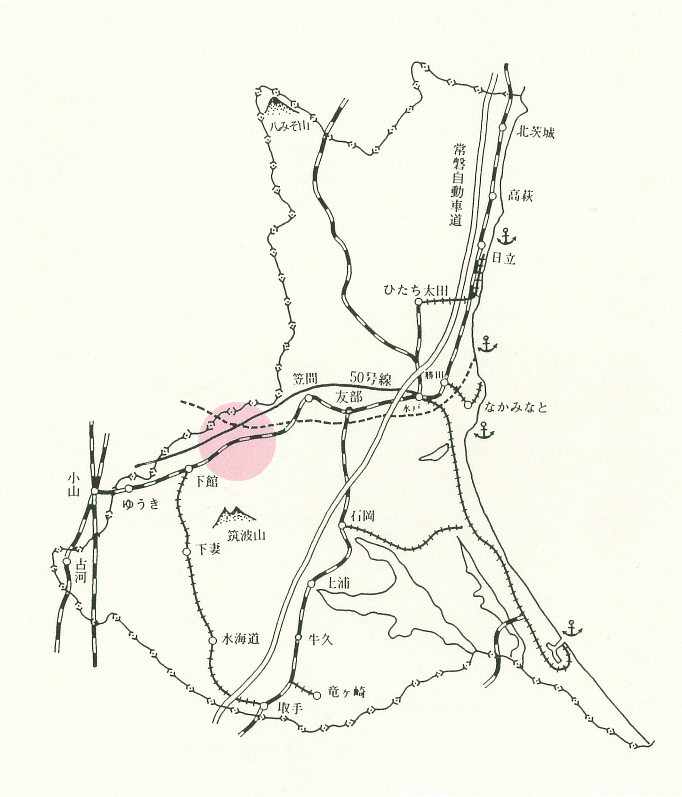
地区の中央部には、東西方向に走る国道50号バイパスが、昭和55年の開通（南側2車線）予定で工事が進められ、また同バイパス中央を横断する形で、都市計画道路岩瀬駅前・富谷線整備事業も着手していた。

こうした交通施設の拡充は、地域経済振興に不可欠なものではあるが、その一方では、無秩序な市街化の進行にはずみをつけ、スプロール化を促す懸念を抱かせた。

岩瀬町の街づくりスタート
ー都市計画の指定ー

昭和48年8月に「首都圏整備計画法」に基づき、下館・結城広域圏（下館市、結城市、岩瀬町、真壁町、明野町、関城町、大和村）は都市開発区域の指定を受け、翌昭和49年10月、茨城県知事は、下館・結城都市開発区域全域を「下館・結城都市計画区域」として決定した。

町では昭和52年5月に、市街化区域と市街化調整区域の線引きを行い、工業専用地域を含めた市街化区域470ヘクタールの用途指定を定め、農村都市としての街づくりがスタートした。


八みぞ山
常磐自動車道
北茨城
高萩
日立
ひたち太田
笠間
50号線
勝田
友部
水戸
なかみなと
小山
ゆうき
下館
筑波山
石岡
下妻
古河
上浦
水海道
牛久
竜ヶ崎
取手

土地区画整理事業の目的

本地区を横断する国道50号バイパスが開通の暁には、市街化に拍車がかかり、放置しておけば、スプロール化を招くことは必至であった。

また、同バイパスが開通すれば交通量は激増するので、沿道住宅地の環境を維持し、さらには歩行者の安全を確保するためにも、なんらかの対策が必要であった。

その有力な施策の一つとして「土地区画整理事業」による環境整備が浮上し、事業化を積極的に推進することになった。事業の目的は、スプロール化に先立ち、道路、公園、水路等の公共施設を整備改善し、宅地の利用増進を図って、健全な市街地を創出することにあった。

組合設立推進委員会の発足

昭和52年5月の都市計画線引きと同時に、町は区画整理事業予定地区の関係区長、副区長及び区の役員を参集して事業の概要の説明を行った。その後、地区役員は区画整理事業の推進方法や、その体制づくりについて数回にわたって協議する一方、各地区ごとに地権者を参集し、町担当者が事業概要を説明した。

こうした地権者との合議で参画意欲も高まった昭和53年3月、岩瀬駅前土地区画整理事業推進委員会が設立された。地権者約203名から推薦を受けた72名の推進委員は、会長1名、副会長7名を選出し、事業化の基盤となる組合設立の推進や、事業実現への普及活動を開始した。

また、昭和53年3月には、街づくりの基本となるA調査（基本構想）が実施された。

2 調査・測量が始まる

—区画整理事業の基本計画の作成—

調査・測量による基本計画の策定と組合設立

さきに策定された土地区画整理調査(A)の基本構想に基づき、翌昭和54年に調査(B)である測量実施を行い、現況図（縮尺1／500）を作成し、これらをもとに基本計画及び事業計画（案）を策定した。昭和55年3月には推進委員会、また4月には都市計画審議会に事業計画（案）を諮問し、引き続いて各地区において説明会を開催する一方、関係諸機関との協議も精力的に進めていった。

このような経緯のなかで、事業開始の準備は整い、昭和57年7月29日に岩瀬駅前土地区画整理事業の決定（茨城県知事による組合設立の認可）を受け、翌8月1日に岩瀬駅前土地区画整理組合の設立総会を開き、ここに官民一体となって新しい街づくりが始動した。

3 事業のスタート

事業の概要

1．事業の名称

下館・結城都市計画事業

岩瀬駅前土地区画整理事業

（国庫補助事業）

2．施行者

岩瀬駅前土地区画整理組合

3．事業施行面積

771,259.30㎡

4．事業施行区域

岩瀬町大字岩瀬の一部

岩瀬町大字青柳の一部

岩瀬町大字鍬田の一部

5．事業施行期間

自　昭和57年8月1日

至　平成4年3月30日

6．総事業費

4,869,718,000 円

7．組合員（権利者）数

●事業認可時　221 名

●本換地時　338 名

岩瀬駅前土地区画整理組合
第 1 回 総 会

▲昭和57年８月１日　岩瀬中央公民館

●土地の種目別施行前後対照表

種目			施行前			施行後	
			地積 m²	%	筆数	地積 m²	%
公共用地	国有地	道路	83,805.76	10.87	145	71,870.60	9.33
		河川	45,392.47	5.89	101	56,843.90	7.37
		水路	8,178.73	1.06		3,903.27	0.50
		計	137,376.96	17.82	246	132,617.77	17.20
	地方公共団体所有地	道路	16,659.82	2.15	207	129,079.87	16.72
		公園				23,740.68	3.08
		河川	9,232.98	1.20	47		
		計	25,892.80	3.35	254	152,820.55	19.80
合計			163,269.76	21.17	500	285,438.32	37.00
宅地	民有地	田	378,651.34	49.10	589	42,025.40	5.45
		畑	119,207.03	15.45	256	168,370.06	21.83
		宅地	28,251.62	3.66	64	146,838.63	19.04
		山林	3,796	0.49	11		
		原野	5,652.20	0.73	31		
		河川敷	772	0.10	1		
		廃道敷	140	0.02	3		
		公衆用道路	184	0.03	1		
		雑種地	4,100	0.53	14	21,513.76	2.79
		計	540,754.19	70.11	970	378,747.85	49.11
	公有地	岩瀬町	14,642.79	1.90	33	14,016.66	1.82
		岩瀬町開発公社	205	0.03	3	143.06	0.02
		計	14,847.79	1.93	36	14,159.72	1.84
合計			555,601.98	72.04	1,006	392,907.57	50.95
保留地						92,913.41	12.05
測量増			52,387.56	6.79			
総計			771,259.30	100.00	1,506	771,259.30	100.00

●減歩率計算書

整理前宅地面積（台帳地積）	整理前宅地更正地積（測量増減を加減したもの）	整理後宅地地積		差引減歩地積		減歩率	
		保留地を含めた宅地地積	保留地を除いた宅地地積	公共減歩地積	公共保留地を合算した減歩地積	公共減歩率	公共保留地合算減歩率
m² 555,601.98	m² 557,021.63	m² 485,820.98	m² 392,907.57	m² 71,200.65	m² 164,114.06	% 12.78	% 29.46

●資金計画書

1.収入

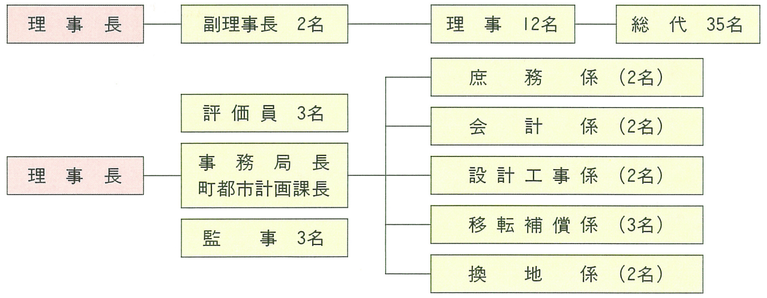
区分		金額(千円)	摘要
補助金	国費	548,010	
	県費	20,600	
	町費	403,390	
	小計	972,000	
臨時交付金	国費	136,700	
	町費	160,300	
	小計	297,000	
保留地処分金		3,423,214	92,913.41 m²
町助成金		28,000	
公共管理者負担金		19,500	一級河川　桜川
その他		130,004	
計		4,869,718	

2.支出

［単位: 千円］

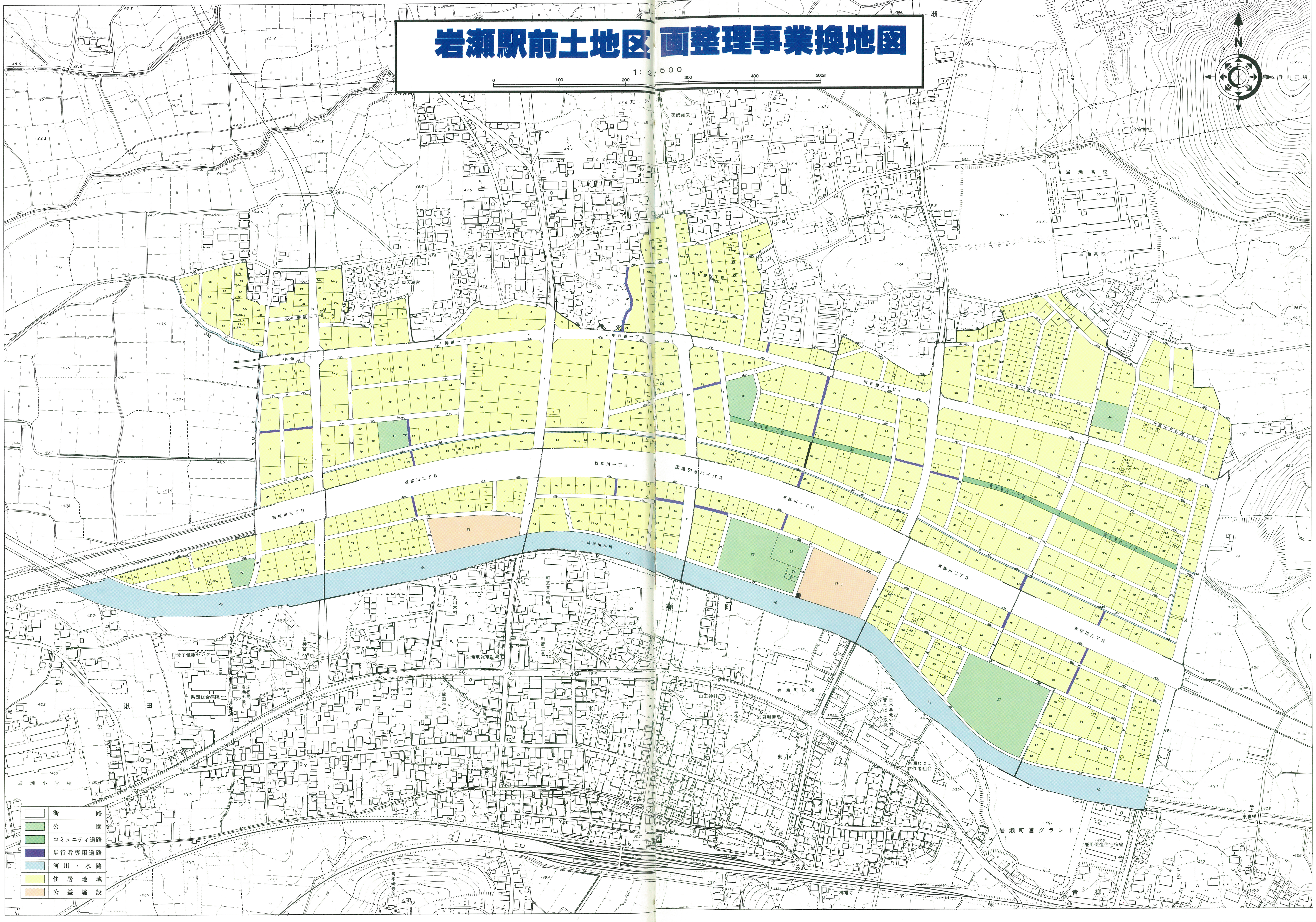
事項				単位	事業量	事業費	摘要
公共施設整備費	築造	道路築造費	幹線街路	m	3,439.00	433,460	
			区画街路	m	13,848.00	629,462	
			特殊街路	m	916.80	233,058	
		水路築造費	幹線水路	m	1,918.5	490,791	調整池含　河川含
			支線水路	m	——	——	
		公園施設費		m²	23,740.68	99,585	
		緑地築造費		m²			
		計				1,886,356	
	移転	建物移転費		戸	60	549,555	
		計				549,555	
	移設	電柱移設費		本	158	36,308	
		電気・電話ケーブル移設費		m	270	81,477	
		上水道移設費		m	216	4,883	
		計				122,668	
法第2条第2項該当事業費			上水道施設費	m	881	24,330	
			計			24,330	
整地費				m²	683,321	1,301,154	擁壁 5,584 m² 事業費 181,026(千円)
調査設計費				m²	771,259	522,839	
工事雑費						101,692	
工事費計						4,508,594	
損失補償費・その他						127,061	
借入金利子				式		66,632	
事務費						167,431	
合計						4,869,718	

●岩瀬駅前土地区画整理組合の組織



岩瀬駅前土地区画整理事業換地図

1：2,500



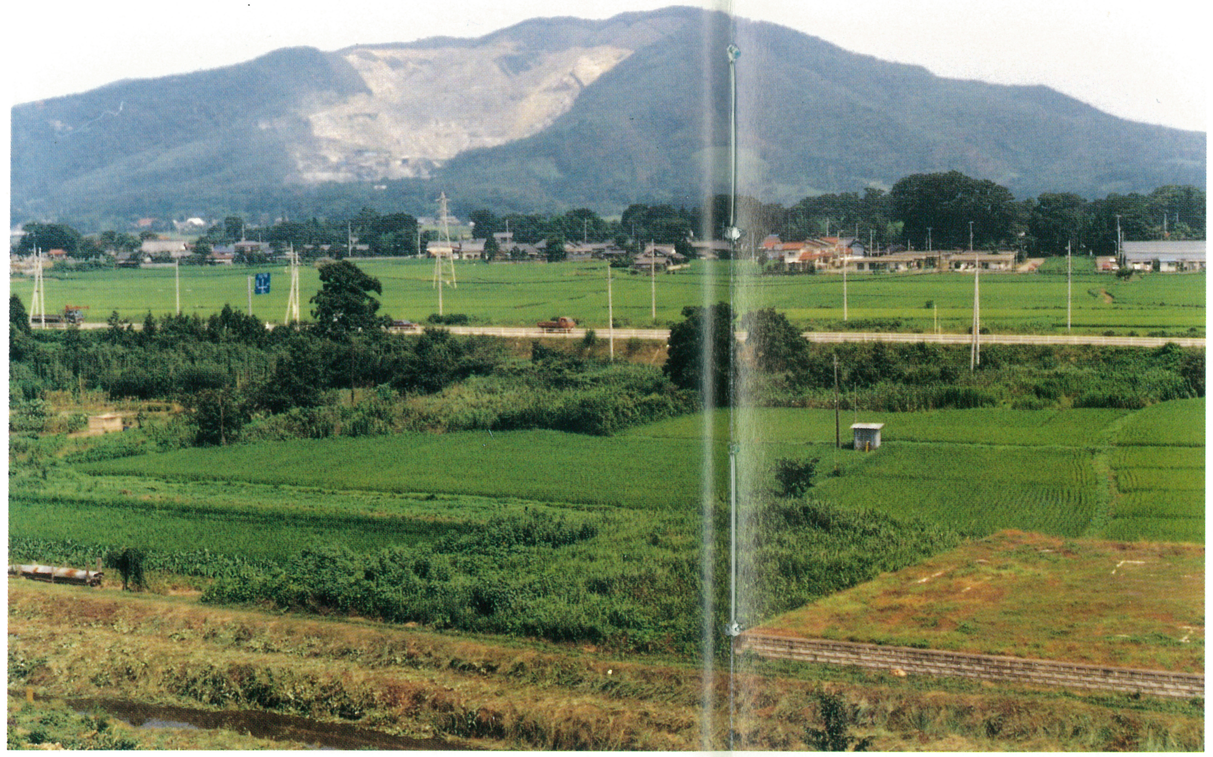
0
100
200
300
400
500m
N
岩瀬高校
今宮神社
国道50号バイパス
明日香一丁目
明日香二丁目
明日香三丁目
駒場一丁目
駒場二丁目
駒場三丁目
西桜川一丁目
西桜川二丁目
西桜川三丁目
東桜川一丁目
東桜川二丁目
東桜川三丁目
一級河川桜川
天満宮
薬師如来
母子健康センター
県西総合病院
岩瀬電報電話局
岩瀬町役場
山王神社
岩瀬郵便局
岩瀬小学校
岩瀬町営グランド
雇用促進住宅宿舎
鍬田
西区
東区
青柳
東裏橋
持竜寺
青年研修所
街路
公園
コミュニティ道路
歩行者専用道路
河川・水路
住居地域
公益施設

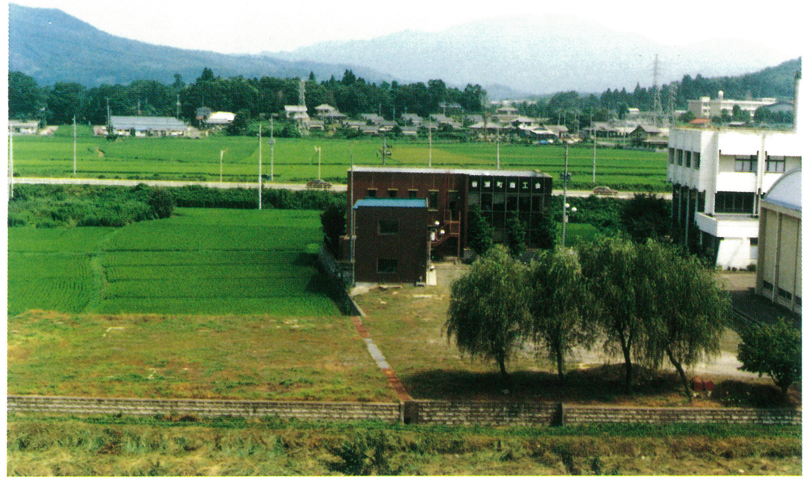
岩瀬駅前土地区画整理組合

4　本工事着工

事業施行面積77.1ヘクタールのほとんどは、青々と広がる農地であった。その沃野を一変させる一大事業が昭和58年７月にスタートした。
工事の無事完成を祈って、理事長はじめ、役員、関係者の出席のもと、起工式が厳かに挙行され、本工事着工の第一歩が刻まれた。

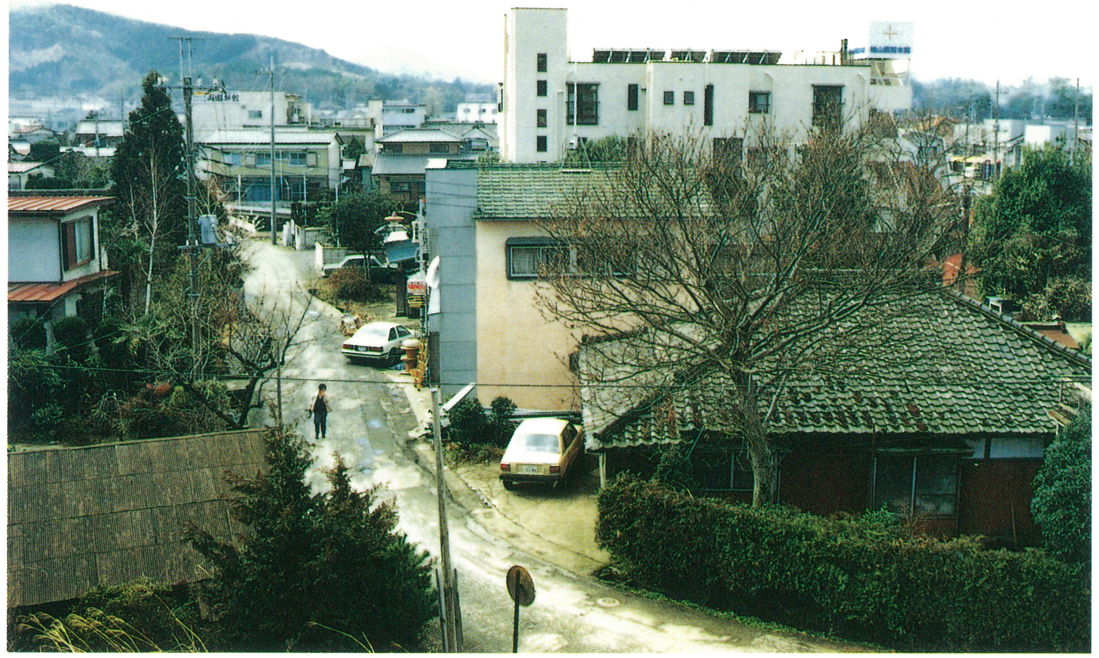
▲昭和58年７月　起工式





一帯が田園地帯であった

▲元町長（故）中田清一氏鍬入れ

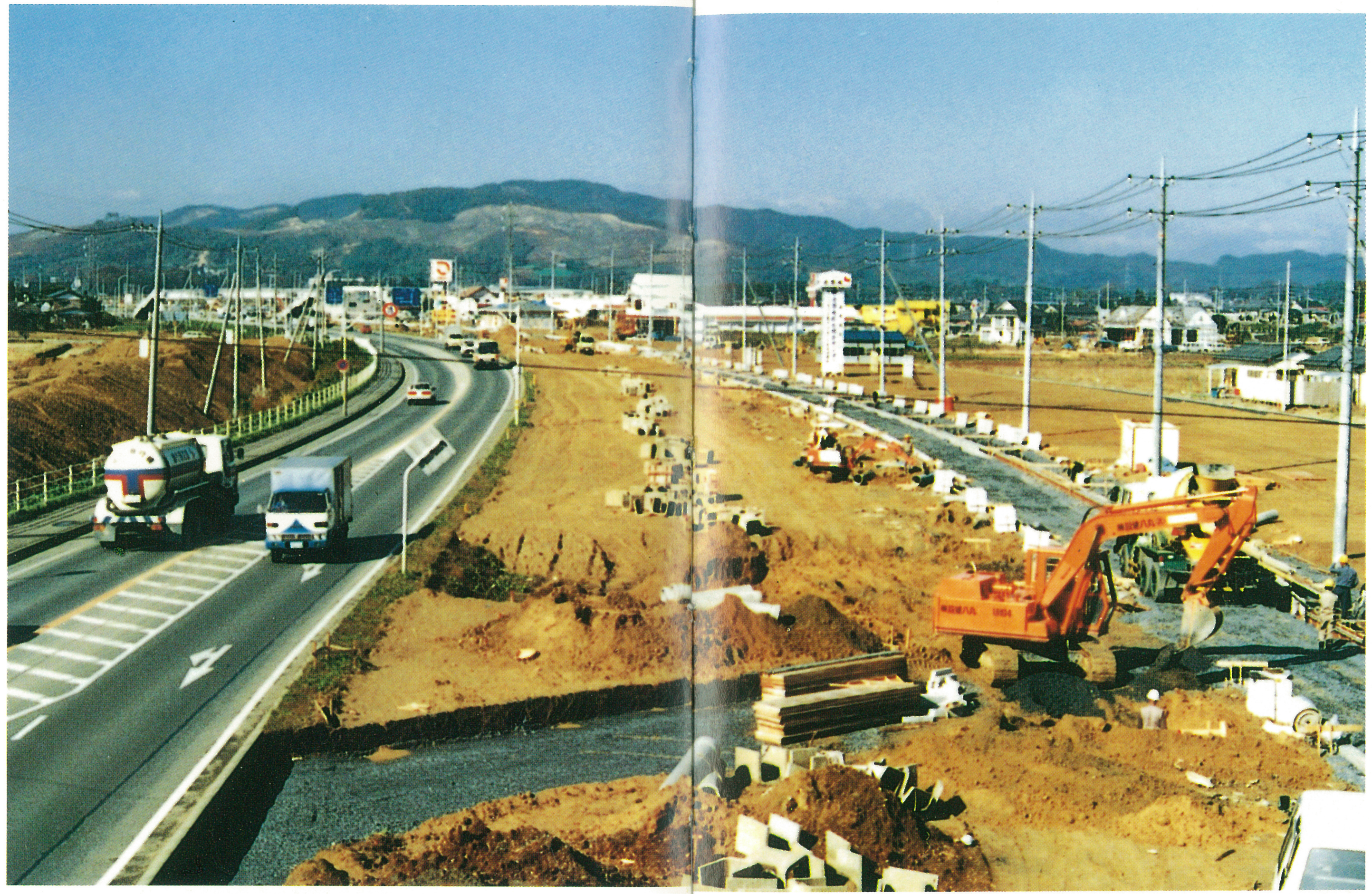


▲施行前の桜川地区

5 進む造成

きのうまで、先祖代々耕されてきた農地が、大型建設機械の響きとともに、日一日と変容してゆく。やがて町の中心となる日を象徴するかのように……。

▲昭和58年8月　盛土工事始まる

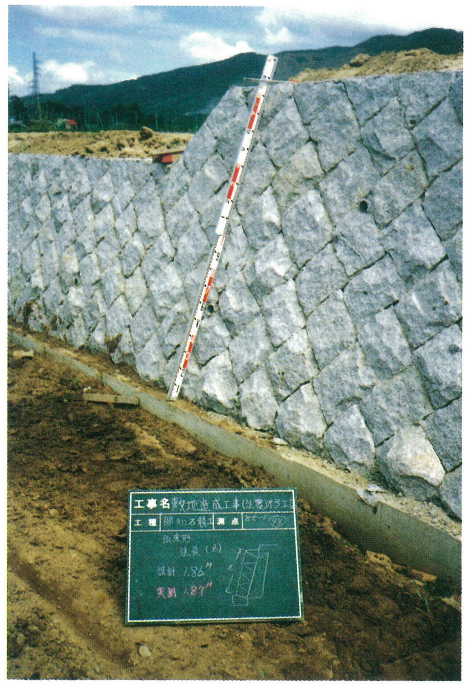


▲国道50号バイパス整備工事

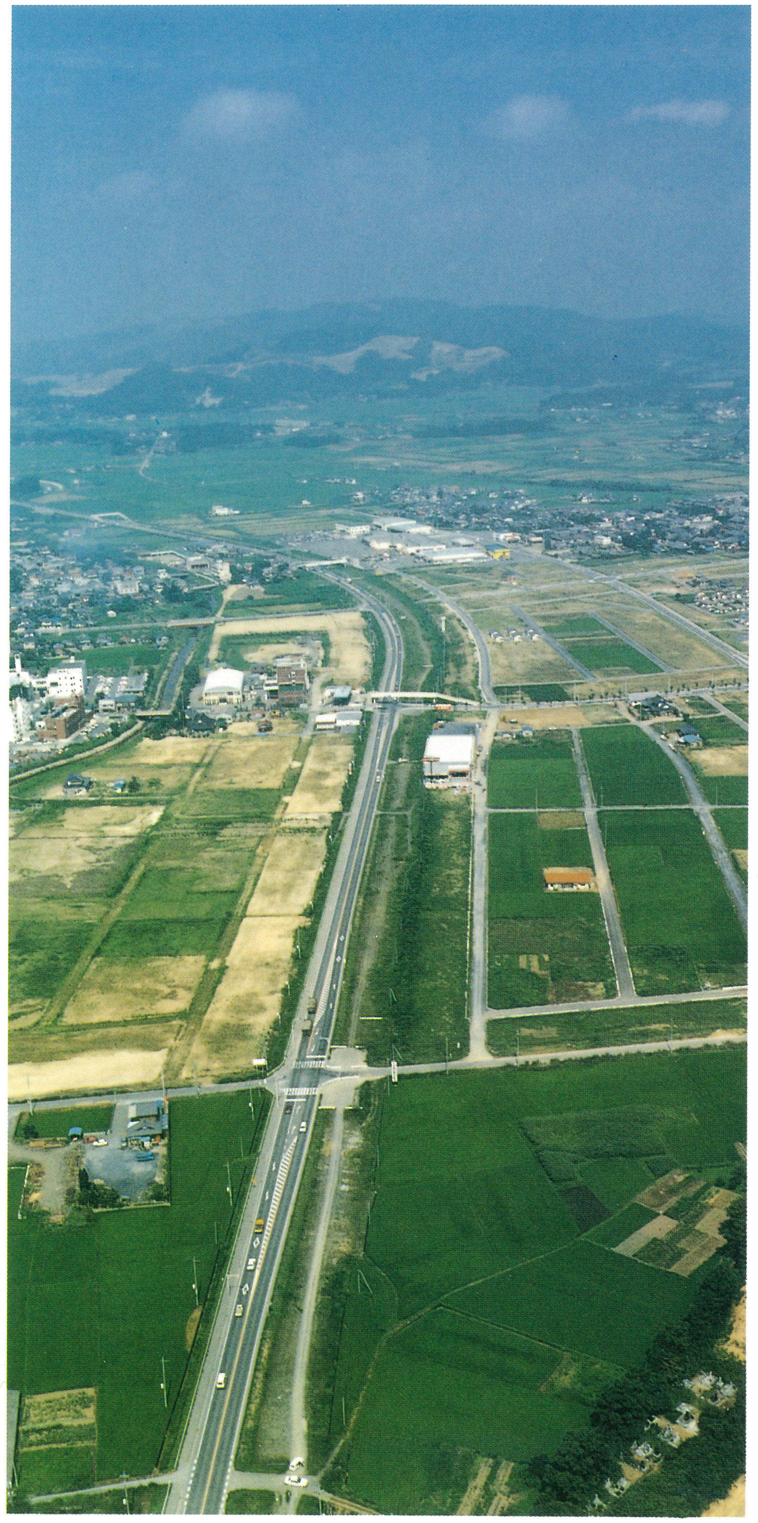
造成工事風景

6 道路が、水道が……

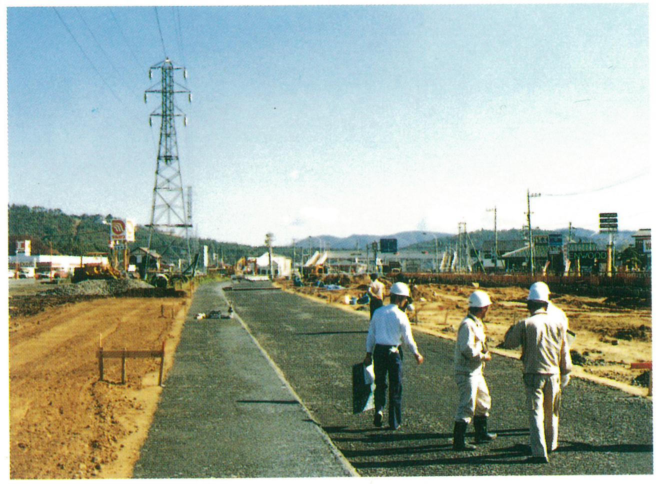
造成が進むにつれ、基幹インフラである水道管等が埋設され、幹線道路・区画街路・特殊街路で構成される街路も次第に姿を整えてくる。そして造成と合わせ、地場産（御影石）の間知石積擁壁が積み重ねられてゆく。



▲間知石積風景



道路築造工事始まる

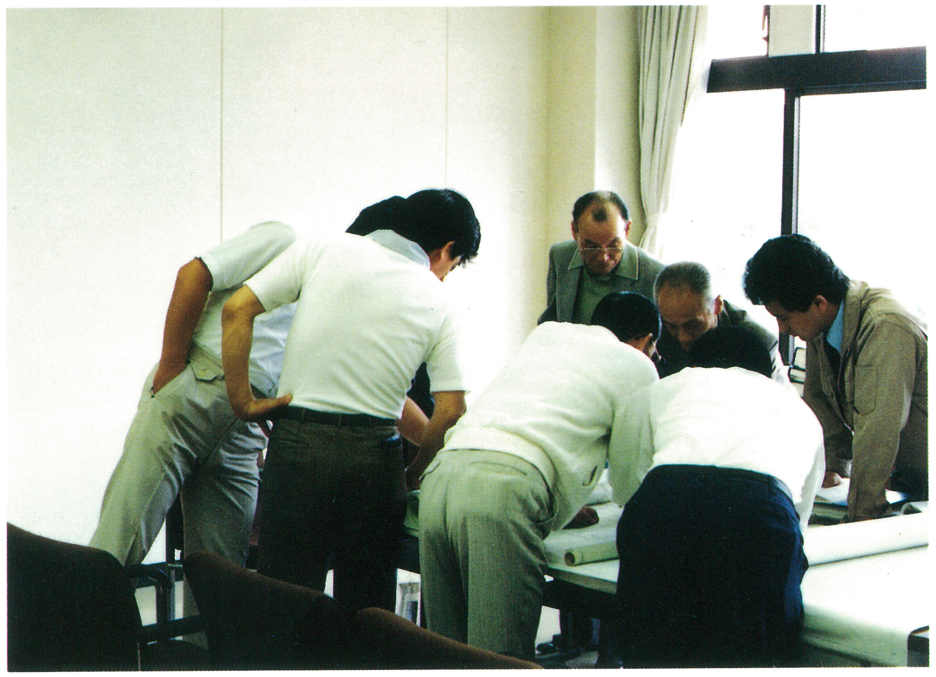


7 基盤整備も大詰めを迎え

▲保留地抽選会

洩き家移転風景

事業もほぼ目安がついた平成３年度には、換地処分、区画整理登記等の手続が進められた。
先祖伝来守ってきた土地が、新しい地名・地番に変わり、土地権利証を手にする地権者の表情は真剣そのものである。



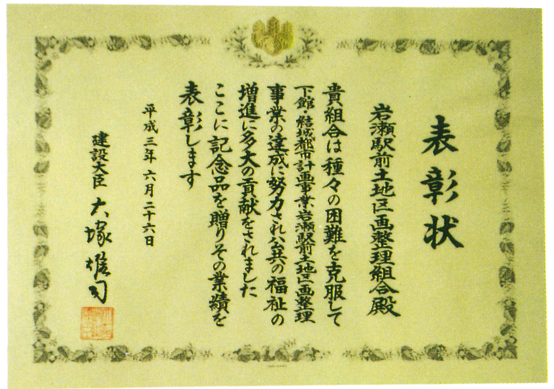
8 完成・大臣表彰・そして竣工式

ユニークなラブロード50「石匠のみち」も完成し、永い年月をかけた岩瀬町の新しい街づくりも無事完了した。

「下館・結城都市計画事業」の一環として、当組合施行による区画整理事業は、県内外に評価され、平成３年６月26日に「まちづくり月間建設大臣表彰」の栄に輝いた。

また平成３年10月28日には、明日香公園において竣工式が盛大に挙行され、事業の主旨である関係者名簿が刻まれた「記念碑」の除幕式が行われた。天賀谷理事長ら関係者の手で碑が公開され、ここに、岩瀬駅前土地区画整理事業は幕を閉じた。事業体の核となった天賀谷理事長をはじめ、各役員、組合員、そして一体となって事業に協力された川那子町長、町当局一同の顔には、無事に一大事業を完成させた喜びに溢れ、その胸には「未来に拓く街」への思いが刻まれていった。

まちづくり月間建設大臣表彰等表彰式



表彰状

岩瀬駅前土地区画整理組合殿

貴組合は種々の困難を克服して
下館・結城都市計画事業岩瀬駅前土地区画整理
事業の達成に努力され公共の福祉の
増進に多大の貢献をされました
ここに記念品を贈りその業績を
表彰します

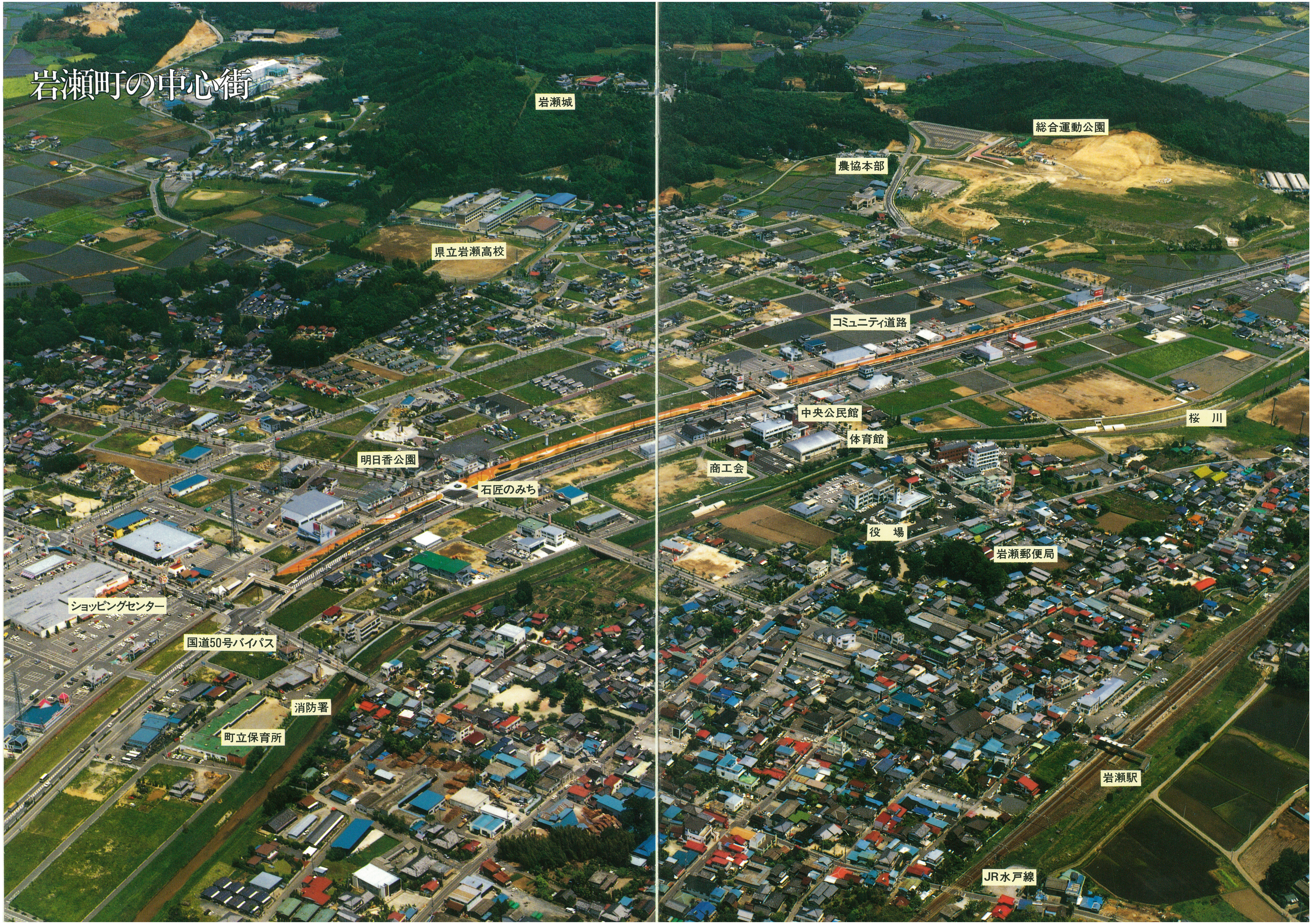
平成三年六月二十六日

建設大臣 大塚雄司

建設大臣賞 受賞（平成3年6月26日）

第２部
新しい街、岩瀬

岩瀬町の中心街

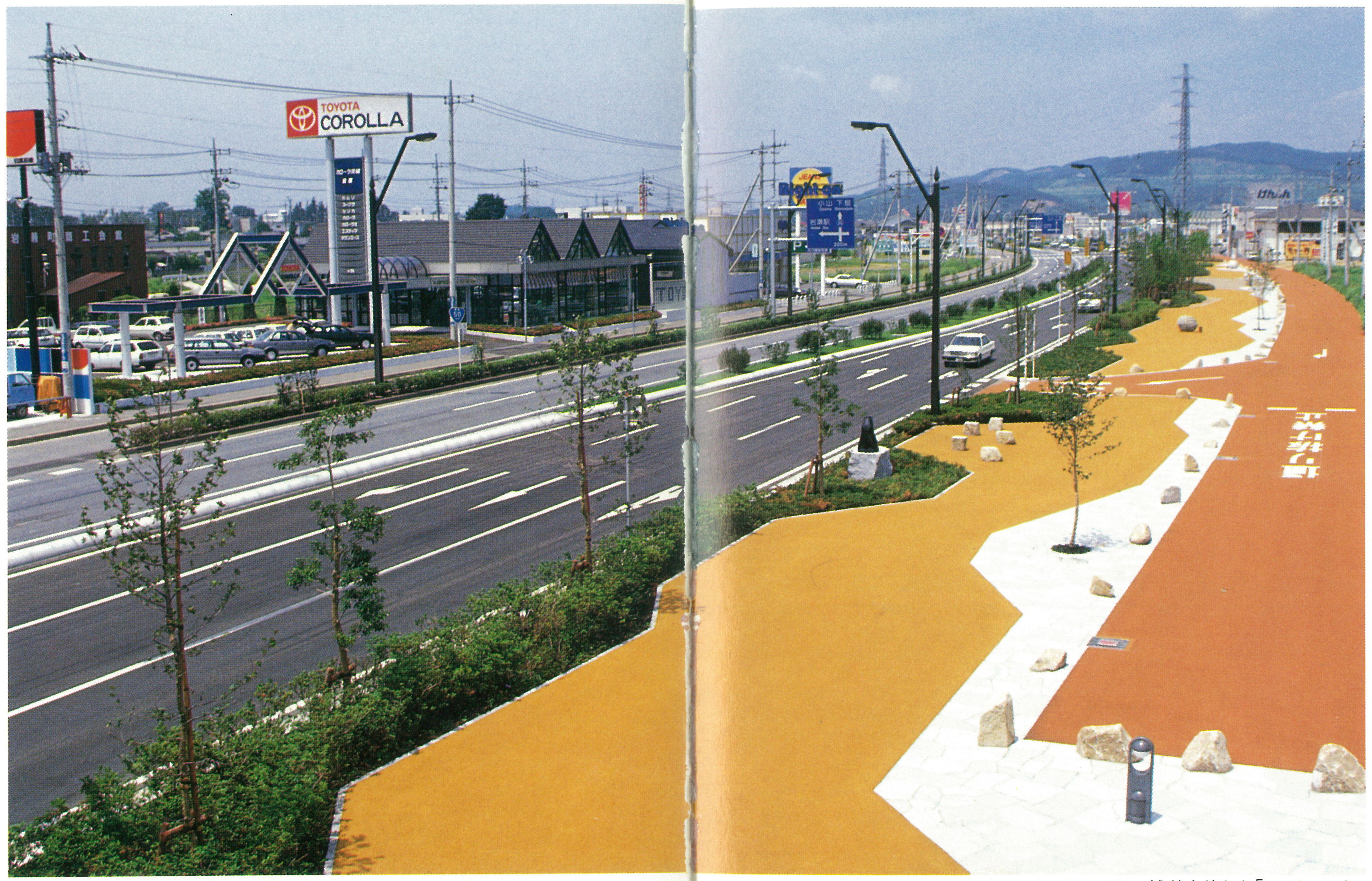

岩瀬城
総合運動公園
農協本部
県立岩瀬高校
コミュニティ道路
中央公民館
桜　川
体育館
明日香公園
商工会
石匠のみち
役　場
岩瀬郵便局
ショッピングセンター
国道50号バイパス
消防署
町立保育所
岩瀬駅
JR水戸線

1 ラブロード50　石匠のみち

羽黒石で総称され、県西部の花崗岩から切り出される岩瀬の「みかげ石」は、高級墓石用青糠目（あおぬかめ）石、建築用材として活用される大目石はじめ、中目石、小目石……と実に多彩である。だが、輸送手段を欠き、永い間“埋もれた宝の山”であった。明治中期、ＪＲ水戸線（水戸ー小山間）の鉄道敷設用石材として使用され出したころから“埋もれた宝”は目ざめ、岩瀬はじめ近郷一帯は石の町として栄え始めた。

土地区画整理事業の街づくりの中に、郷土の誇りであるこの石を活用したい、という声が高まっていた。そこで、道路利用者が道路を愛し、地域に親しみと愛着を、という願いが込められ、建設省が事業主体となり、近隣市町村の協力のもとに、国道50号岩瀬バイパス沿いの延長約1,000メートルがラブロード50「石匠のみち」として、潤いに満ちた見事な空間を生み出した。

上下４車線の中央分離帯と両側は緑のベルトで、その北側緑地帯と供用するのが遊歩道「石匠のみち」であり、石匠が丹精こめて制作された14基のモニュメントに並んで、子供が夢をはせた作品が点在する。地場産業の活性化を担う「石匠のみち」は、町の新しいシンボルであり、誇りである。



▲カラー舗装を施した「石匠のみち」

▲彫刻作品「MOKKORIーもっこりー」

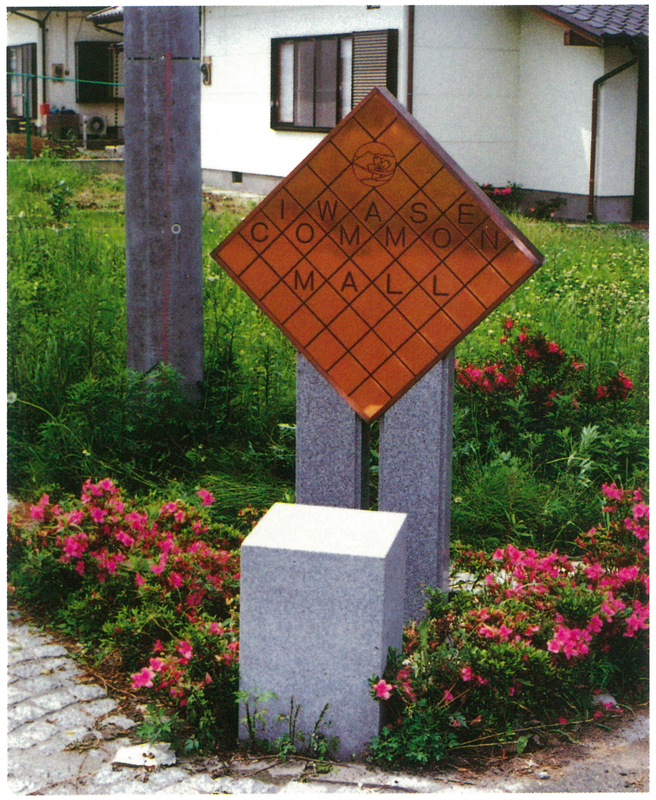
▲彫刻作品「道くさ」

▲小・中学生によるパレード

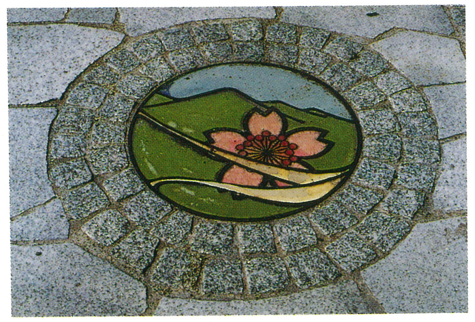
▲彫刻作品「変相」

2 コミュニティ道路

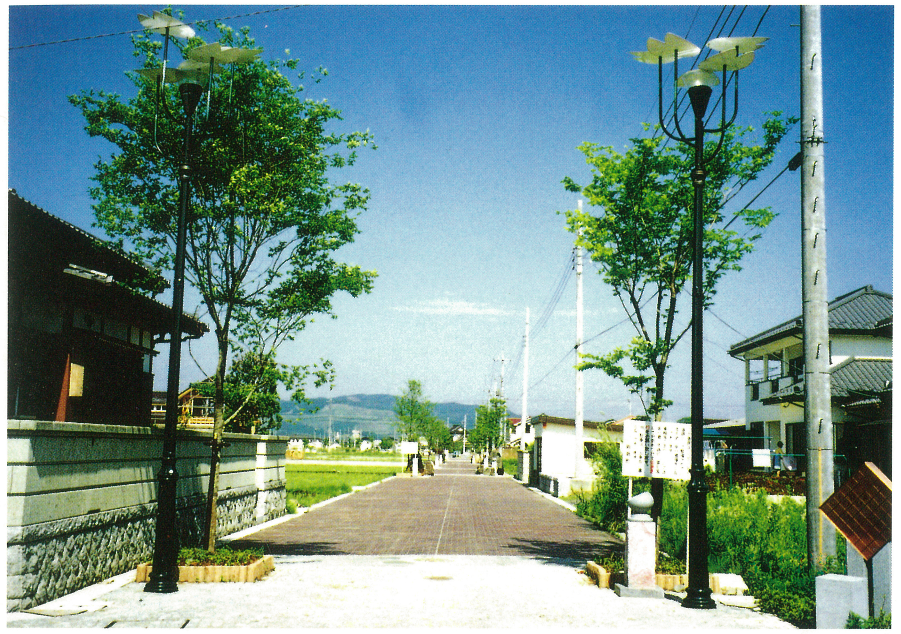
整然と整備された区画中央を「石匠のみち」と並走する「コミュニティ道路」は、地場の御影石と陶器板を敷きつめ、随所に町の“シンボルマーク”が浮かぶ。両側に植樹された「アメリカハナミズキ」は、その季節に可憐な花を咲かせ、その間に点在する５弁の街路灯に灯がともると、鮮やかな“桜”を演出する。まさにコミュニティ道路にふさわしい。



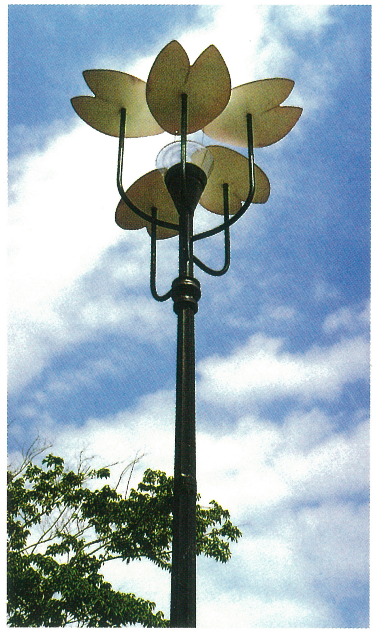
▲富士見台二丁目地内コモンモール



▲歩行者専用道路



▲コミュニティ道路と街路灯（富士見台二丁目地内）



▲桜の花を演出する街路灯

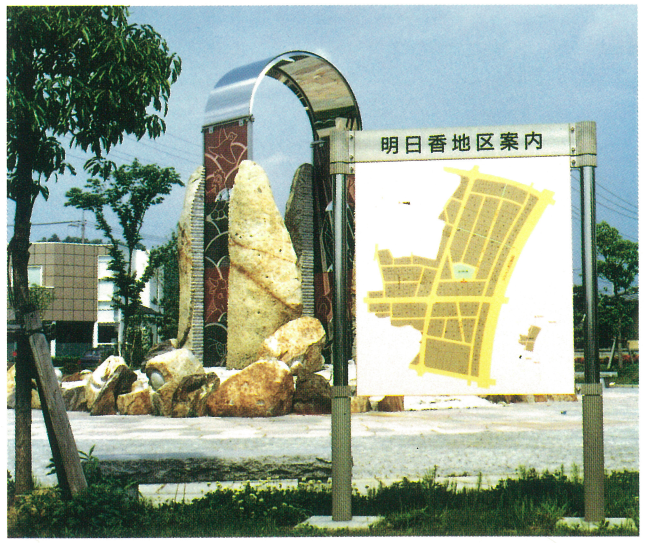
▲コミュニティ道路（明日香二丁目地内）

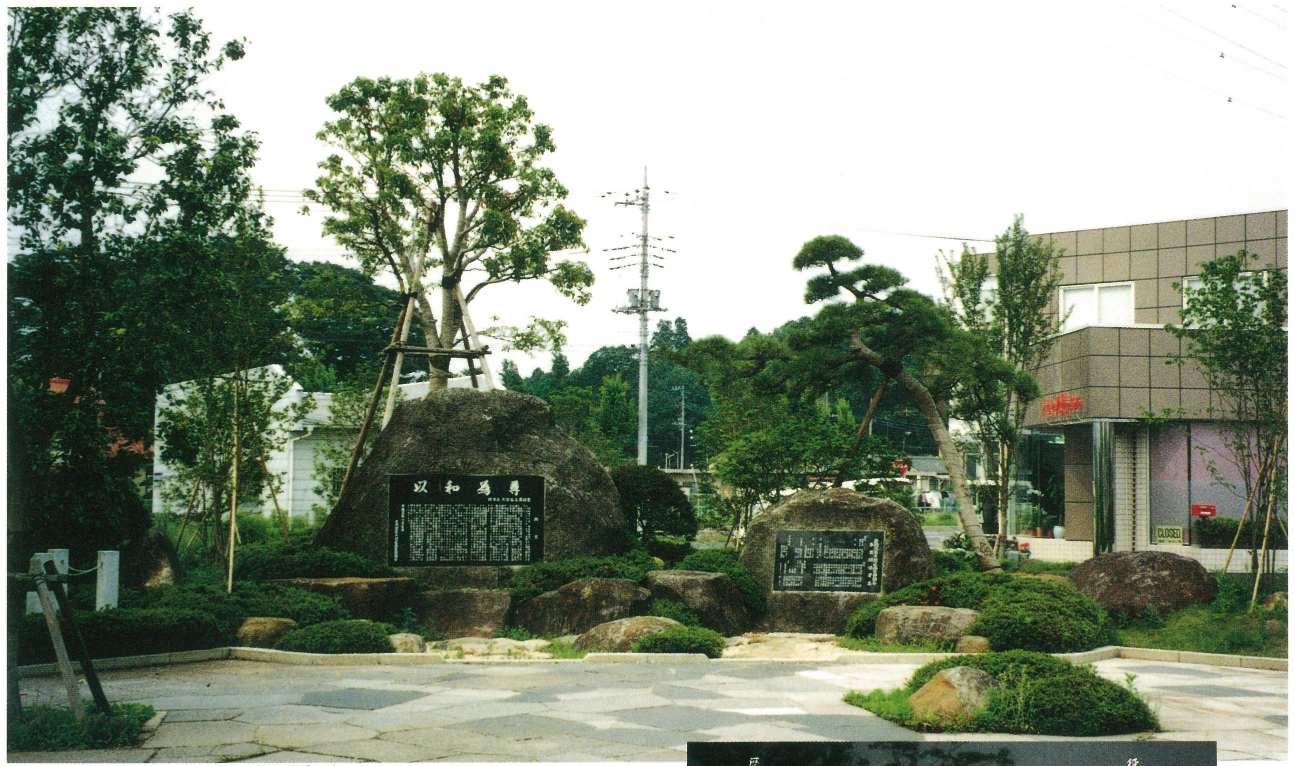
▲筑波石を施したコミュニティ道路（富士見台二丁目地内）

3 明日香公園とモニュメント

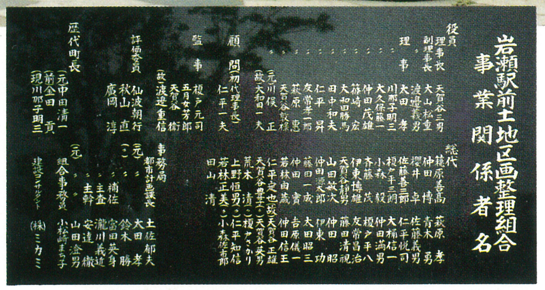
事業地内の中心部に完成された「明日香公園」。
地場で掘り出された石材を用い、本町の歴史・生物・産業・収穫をモチーフとしたモニュメントが万葉の巨石文化にちなむ“明日香”を具現するかのように、輝いている。
平成３年10月、「記念碑」の除幕式が行われ、今世紀の一大事業に花を添えた。

明日香公園





▲庭園を思わせる記念碑



岩瀬駅前土地区画整理組合
事業関係者名

役員
理事長 天賀谷三男
副理事長 大山松重
〃 渡邉義男
理事 大田孝
〃 川那子明三
〃 大久保藤一
〃 仲田茂雄
〃 篠崎宏
〃 大和田勝馬
〃 田中和夫
〃 仁平昇
〃 友常孝一郎
〃 荻原恵
〃 天賀谷敦禄
(元)川俣正
(故)大和田一夫
顧問(初代理事長) 仁平一夫
監事 榎戸元司
五月女芳郎
天賀谷衛
評価委員 (故)渡邉重信
仙波朝行
秋山直
廣岡淳
歴代町長 (元)中田清一
(前)金田貢
(現)川那子明三

総代
篠原善高 荻原孝
仲田博 青木勇
櫻井卓 佐藤義男
佐藤善三郎 仁平悦司
榎戸平三朗 大橋信一
小森毅 仲田満男
斉藤茂 榎戸平八
伊東博雄 友常昌治
天賀谷静男 藤田清視
山田敏次 仲田昭
仲田源太郎 伊東功
藤田一成 太田昭三
仲田實 吉原儀一
若林由蔵 仲田信王
仁平定也 (故)天賀谷正雄
天賀谷豊三(〃)天賀谷英男
荒木清(〃)榎戸さかり
上野恒男(〃)仁平知信
若林正美(〃)小森佐市郎
田山清

事務局
都市計画課長 土佐郁夫
(元)〃 大田孝
(〃)〃 鈴木勝
補佐 富田英身
主査 瀧川義近
主幹 安達徹
(元)〃 山田澄男
組合事務員 小松崎まち子
建設コンサルタント (株)ミカミ

IWASE COMMON MALL

▲コモンモール

4 緑豊かな住宅

整地の完成を待って、家並が建ちはじめた。

整然と張りめぐらされた街路の一区画、一区画が、次代の岩瀬を担うコミュニティに変わってゆく。

▲間知石積を施した住宅

▲コミュニティ沿いに建並ぶ住宅街

▲富士見台三丁目住宅街

▲北3号児童公園

▲間知石積を施した住宅

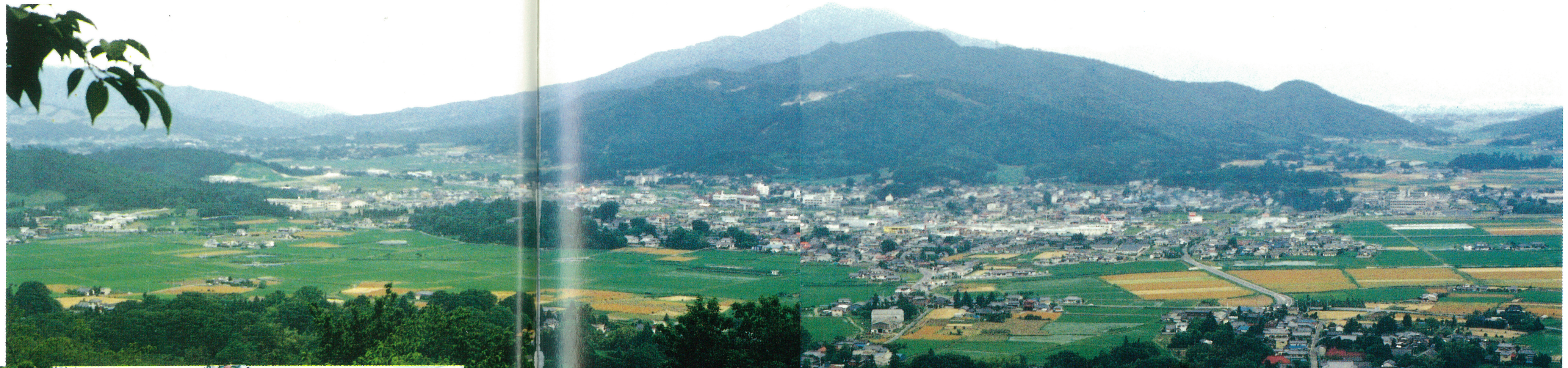
▲県営住宅

▲コミュニティ道路と住宅街（富士見台二丁目地内）

▲西桜川住宅街

5 21世紀の“岩瀬”

組合事業という区画整理事業の中で、町民のエネルギーが結集した。意識改革をもたらせたこの求心力が、新たに迎える町民と一つになって、一歩一歩、21世紀の“岩瀬”を築き上げてゆく。移り変わろうとする“岩瀬”に隣接してオープンした室内温水プールも新しい顔の一つであり、岩瀬バイパスを挟む夜景は美しく、その未来に夢を走らせる。


▲富谷山より一望した住宅地

NAKATA
ナカタ
レストラン

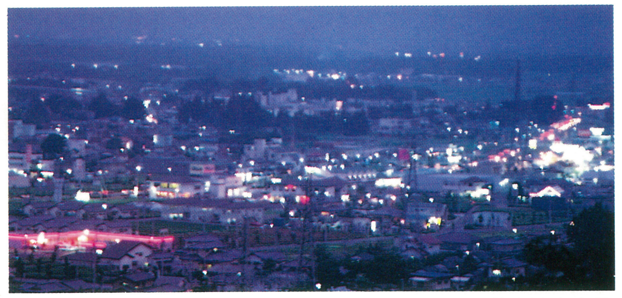
▲筑波益子線

▲温水プールが完成された

▲桜並木の街路（駅前～富谷線）

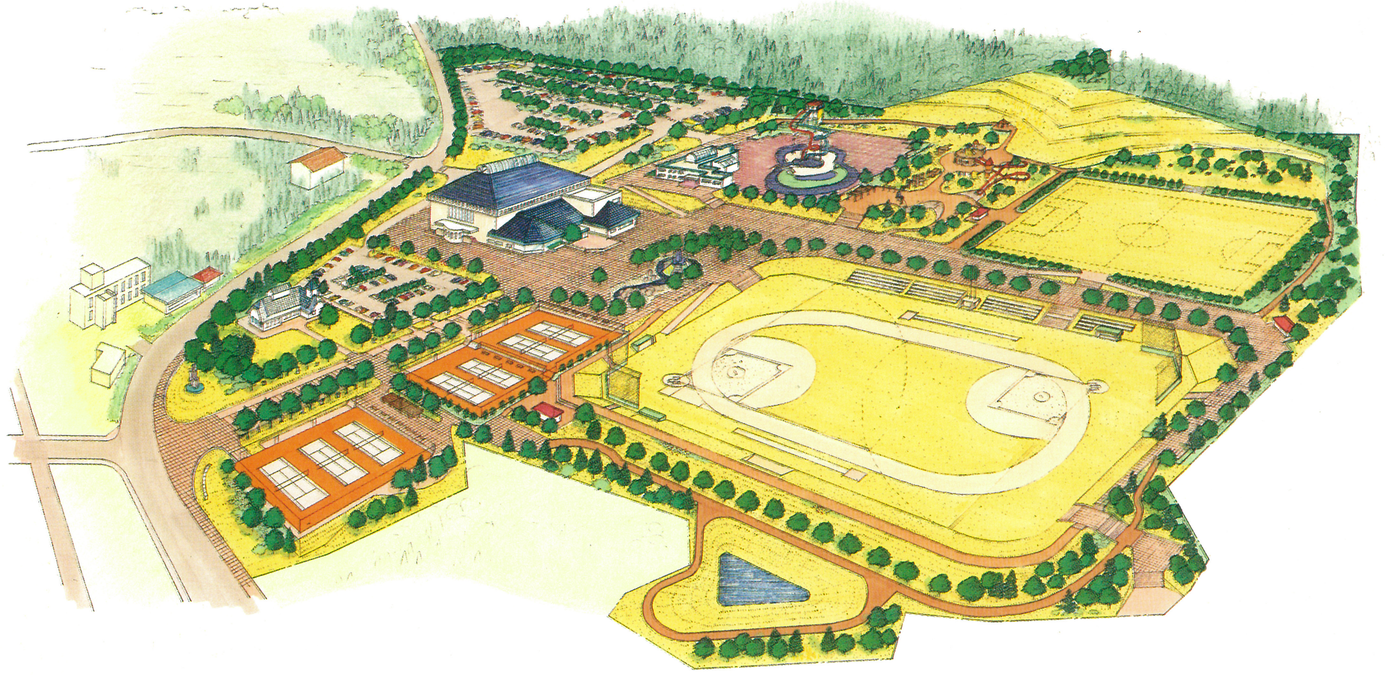
▲北3号児童公園

▲北3号児童公園

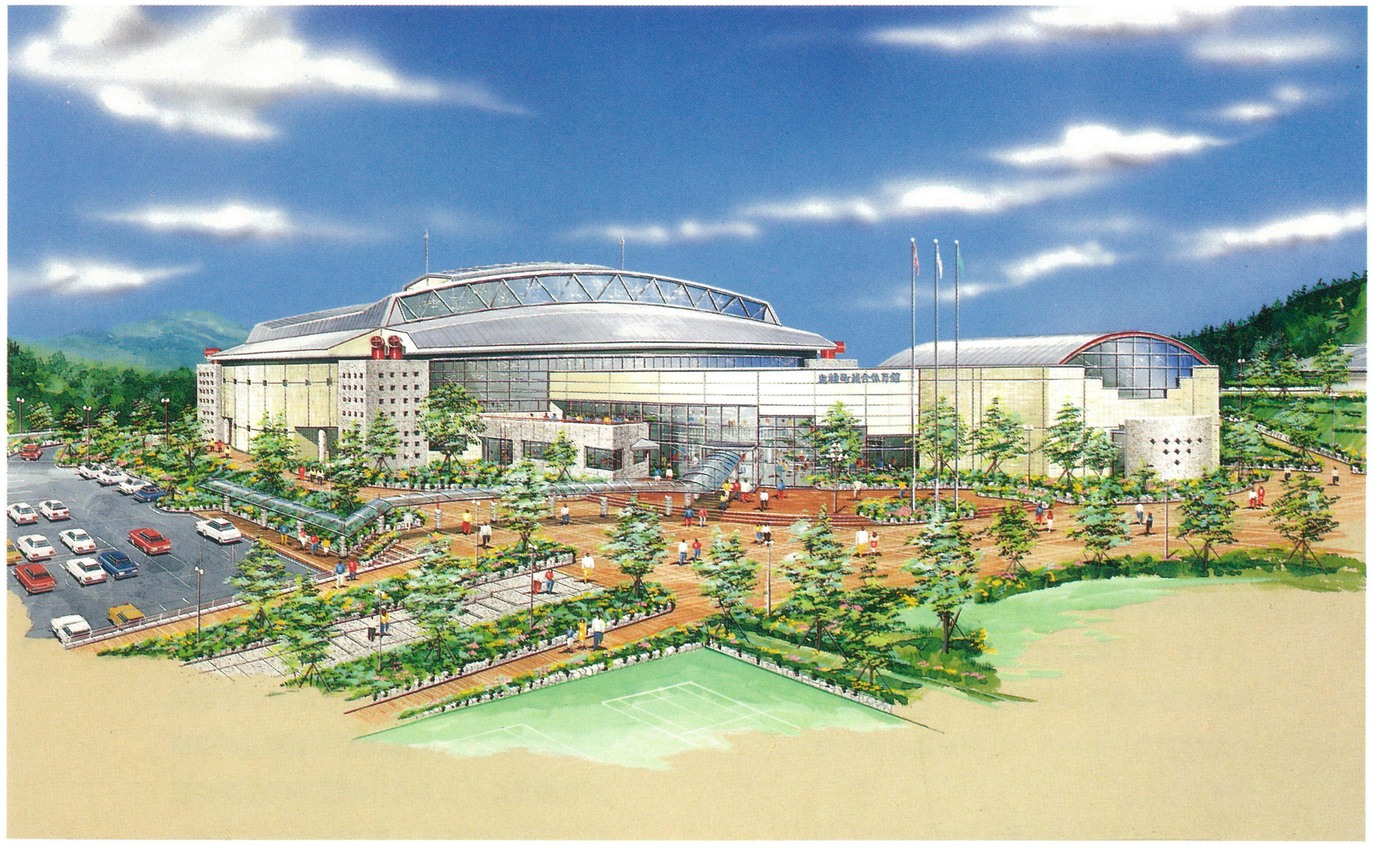

▲区画整理地内夜景

岩瀬町立総合運動公園 ―石の文化のスポーツ公園―

岩瀬駅前土地区画整理事業の造成用盛土材として使われた土取場の跡地は整備され、町民のコミュニティの場としての町立総合運動公園が誕生する。



総合運動公園完成予想図



総合体育館完成予想図

座・談・会

岩瀬駅前土地区画整理事業を終えて

●出席者

理事長　天賀谷　三男
都市計画課長　土佐　郁夫
司会/主査兼係長　滝川　義近
副理事長　大山　松重
副理事長　渡辺　義男
課長補佐　富田　英身
主任　安達　徹

理事長　天賀谷　三男

推進委員会役員が果たしたこと

司会　“地方の復権”、“村興し・町興し”などがこだまする中、当町にとって画期的な大事業である「岩瀬駅前土地区画整理事業」が無事に完成し、記念誌『未来に拓く街』を発行する運びとなりました。覚悟の上とはいえ、これだけの事業を完成させるには、越えねばならない、いろいろな関門があったと思います。きょうは、この記念誌の締めくくりとして、完成に至るまでの苦労話しなどを語っていただきたいということでお集まりいただきました。

まず、組合設立当時のことから話しを進めていただきたいのですが、初めに天賀谷理事長、いかがでしょうか。

天賀谷　国道50号バイパスなど道路整備計画が進むにつれ、放置しておくと乱開発されて、スプロール化する危惧が強まった。町当局としては、そうした喜ばしくないシナリオを防ぐ施策に頭を悩ませ、組合事業による土地区画整理で町の活性化を図ろうということになりました。

それにしても、対象となる地権者が200名を越えることから、各地区の有力者を推進委員に推薦し、事業化に向け、関係者に対し普及活動を開始したわけです。

司会　計画区域の線引を確定するまで、ずいぶんと曲折がありましたね。

大山　一つ一つが個人の利害とからみ、最初からすべての人が賛同してくれたわけではありませんでしたし、予期しない問題にも直面しましたね。

渡辺　当初のころの推進委員会では、同意者のとりまとめ状況を報告するときは明るいが、不賛同者をどう説得して賛同を得るか、苦慮したこともたびたびありましたからね。もっとも、総体的には順調にきましたから、今にしてみれば、苦労というほどでもなかったような気もします。

富田　駅側からみて、50号線で切るか、桜川地区を含めるかも問題でした。桜川地区を入れると、人家も十数軒あったし、移転事業費もかかりすぎるということで当初は外しましたが、最終的には組み入れました。大雨による洪水で冠水することもあったので、思い切って事業計画に含めたのは正解でしたね。

大山　駅前地区の一部を含める話しもありましたが、これは面積に限界もあって実現しませんでした。

富田　ともかく、昭和56年に取りまとめた組合設立の仮同意は、68％ぐらいの賛同者を得、過半数を越えたことから、事業化することが可能ではないのかとの判断で各機関との本格的な協議に入りました。最終的な組合設立認可時には、約93％の同意を得ています。

天賀谷　やはり、推進委員が果たした役割が大きかったですね。個々に回ってみても、役員を自分たちの利益代表者ととらえ、ある程度は我慢して話しに応じようという協力意識がうかがえました。それに、各人とも、都市計画のもとに町を発展させようという意識を明確に持っていたことが肌で感じられました。これが、事業を円滑に推進させた原動力といえるでしょう。

副理事長　大山　松重

副理事長　渡辺　義男

なぜ住み慣れた生活を変えるか

司会　第１回目時点で仮同意の賛同者が68％ということですね。周りの人も、何が何でも反対ではなく、いま一つ踏み切れないという人が多かったと思います。反対する理由もいろいろあるでしょうが、その辺を整理していただけませんか。

天賀谷　やはり、住み慣れた土地への愛着からではないでしょうか。これまで住んできて、何ら不自由をしていないのに、いまさら地所を移転し、家を建て替える必要などどこにあるのか、という思いが強いのです。

大山　それは、どんな姿になるのかわかりませんからね。実際、基盤整備などでは、自分の土地がとんでもない所へ移ってしまうという実例もあります。完成の暁、はたして自分の土地はどうなるのだろうかということに疑問があるし、自分なりに予測して不安を抱く気持ちはわかります。

天賀谷　初めての事業だけに、各地権者とも、どうなるのか戸惑うのは当然です。

渡辺　しかも、今まで田畑であったところが宅地化されるとなると、生活にも響いてきますからね。

土佐　土地改良の場合は田は田ですから、そんな不安は抱きませんがね。

大山　当時、ここまで整備された宅地化の状態を想像することは困難だったでしょう。

天賀谷　田を宅地にして売るなど、考えてもいない当時でしたから、「大変なことだ、どうなるのだろう」という思いが強かったと思います。

大山　その意味では、郡山で実施した都市計画の見学は参考になりました。あそこも田畑が変貌して見事に宅地化していましたからね。そうした先進地区の見聞を広めるにつれ、気持ちもだんだんと和らいできたようですね。

司会　事業が完成した現在、もとの田畑の方がよかったという人はいませんでしたか。

天賀谷　やってよかった、という人が100％ですよ。まず、不満の声は耳にしません。

土佐　基盤整備の場合の換地は、農地としての地質の良し悪しで苦労することも起きますが、区画整理は、現状換地主義だからそれがありません。その点では、組合員お互いに満足できたということでしょう。

都市計画課長　土佐　郁夫

課長補佐　富田　英身

“時の利”背景に事業推進

司会　それにしても、当事業は実に恵まれた時期・環境のもとで完成しましたね。オイルショックの後遺症から抜け出し、バブル崩壊と前後して完成したという点で…。

大山　この区画整理事業が本格的に浮上しだした当時、農業の将来、経済環境について大きな不安が横たわっていました。それに、労働力の都市への移動と農村の過疎化、また一方では、都市周辺のスプロール化も注目されていました。

天賀谷　そうした中で、こんなに広大な面積を宅地開発して、果たしてやっていけるのかどうか、不安を抱いたことは確かです。土地を整地したものの、家が建たなければ大変ですからね。今にして思えば、すべてが杞憂で思い切って事業を推進して本当によかったと思います。事業着手後、東京を中心とした土地の異常な高騰が地方へも波及してきましたからね。

司会　これからの予定地区、例えば「羽

主　任　安達　徹

黒地区」などは大変でしょうね。

大山　そうです。それに、羽黒地区は商店も多いので、家屋移転だけでも容易でないところに、営業補償など厄介な問題も加わってくるでしょうからね。

天賀谷　われわれの経験から推しても、よほど肝を据え、計画的に環境を盛り上げていくことが必要でしょう。

富田　区画整理事業といっても、小さな所だと2～10ヘクタール、一般的にも30～50ヘクタールというのが多い。当地区は77ヘクタール余と県下での町村単位では一番大きな規模ですが、その割には、いい時期に事業を展開したということもあってスムーズに完成したと言えますね。

天賀谷　良い環境の中で、当町の明日を開くにふさわしい事業を完成できたことは、誠に喜ばしい限りです。結果からみても、地価で50万円という価値を生んでいる所もあるようです。これも、事業によって住環境の整備された街が実現したからであると思います。また、この事業とあわせて国道50号バイパス沿線の“環境美化整備”を旗印に建設省と岩瀬町で施工したラブロード50「石匠のみち」の完成も大きな要因と言えると思います。

土佐　「石匠のみち」の完成は、本事業に花を添えていただいたことにもなりましたし、全国的にも岩瀬町のＰＲになったと思います。

天賀谷　ともかく、全てがうまく回転し、結果として建設大臣賞を授与されるという栄誉も得ました。このような事業の完成の喜びを後世に伝える記念碑も建立されましたし、私自身、大いに満足しています。

大山　同感です。よくぞやってきた、という思いが強いですね。

安達　直接に関与した経験が少ないので大きなことは言えませんが、諸先輩のご苦労を大いにねぎらい、これからの発展に力を尽くしたいものです。

町発展の核となることを願って

司会　記念碑にまで話しが及び、一応は語り尽くされたかと思います。最後に、テーマにのぼらなかった個々の問題を、随意お話しください。

富田　苦労したと言えば、補助事業施行としての問題もありましたね。当時の補助採択基準では、都市計画道路の用地買収をはじめ、家屋移転補償などの築造費まで含めたものが基本事業費で、これを全部集めても12億円強。総事業費はこの基本事業費の３倍以下ということになっていますから、総事業費は最大見積っても38億円ぐらいでとても足りない。そういう状況でスタートしているので、調整には手間どりました。

たとえば、造成用の盛土材の確保、これは町はもちろん、土地所有者から無償で提供していただいたことや、本事業で計画した水道事業等を町にお願いして事業費の軽減を図るなどの策を講じました。ともかく、町は補助金の負担などは別として積極的な助成策を講じてくれました。

大山　それがあったからこそ、今日の成果をみているわけです。りっぱな決断でしたよね。

司会　いざ換地という段階になって、個々に問題も出てきましたね。

渡辺　区画整理だから、整地すると画一的な形状になってしまう。それに対する違和感はありました。

富田　整地前、幹線道路に面していた所はやはり元通り、幹線道路に面した土地に換地しなければなりませんが、一方では、道路計画に基づいて換地する。整理前は広い間口で道路と接していても、換地において間口が狭くなった場合苦情が出て、この調整には骨を折りましたよ。

司会/主査兼係長　滝川　義近

天賀谷　細かい面で問題があったのは事実ですが、大局的にみて、組合員が現状に満足していることに疑いはありません。残された問題は、各組合員がいかに運用していくかということでしょう。本来が農業者ですから、土地の取引となると不慣れなので、つまらない利用の仕方とか売却とかも起こってくるでしょう。それらはあくまで個人の問題ですが、せっかく立派な土地に生まれ変わったのだから、子孫に伝えられるよう、また、町の発展に寄与するよう、効率的な運用を目指してほしいものです。

司会　組合員が決意し、町も総力を挙げて完成させた事業である以上、当然の要望ですね。その意識をしっかりとらえ、豊かに実りある岩瀬町へと発展することを願って、この座談会を終えたいと思います。お忙しい中、たいへんありがとうございました。

史蹟と観光

茨城県を象徴する霞ヶ浦と筑波山を中心とする「水郷筑波国定公園」は、南は利根川が注ぐ波崎海岸、そして北は栃木県と隣り合わせの岩瀬町へと連なる。どの土地にも“俺が町（村）の……”と自慢する名所・旧跡の一つや二つはあるが、岩瀬も事欠かない。

磯部桜川公園

いつよりも春べになれば桜川
　なみの花こそまなくよすらめ

と歌った紀貫之の歌碑が建つ磯部稲村神社の丘陵地に広がる磯部桜川公園。眼下に見下す桜川一帯は古くから桜の名所として知られ、世阿弥が描いた悲話『桜川』の舞台であった。4.4ヘクタールの園内にはソメイヨシノはじめ数十種約1,000本の桜の木があり、春の沿道はさながら花のトンネルである。

そのほか、高花木類（350本）、落葉樹類（500本）、常緑樹類（650本）、低花木類（5,000株）が植樹されており、四季を通じて憩いの場となっている。

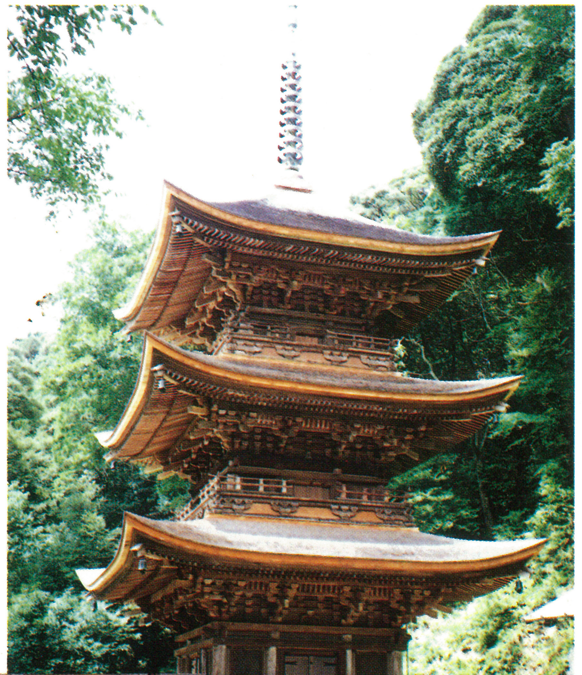
上野沼やすらぎの里

慶安時代、灌漑用として築造された上野沼。14.4ヘクタールのこの沼を延長2.4キロメートルの遊歩道が取り囲み、ほとりには自然をいかしたキャンプ場「やすらぎの里」が展開する。

おしゃれなケビンが並び、夏ともなるとオートキャンプ場は家族づれのキャンピングカーで埋めつくされる。そのほか、テニスコート、バーベキュー広場、多目的運動広場等も整備され、気軽にアウトドアライフが楽しめる。

富谷観音

天平7年(735)、行基が開山したと伝えられる富谷観音は、開運、安産、子育ての祈願所として知られている。本尊・十一面観音菩薩は行基自身の作、脇侍不動尊は慈覚大師の作と伝えられ、四柱造りの本堂は江戸時代に再建された。また、傍の三重の塔は寛正6年(1465)に建立されたもので、関東以北ではまれにみる室町時代の塔である。



文部省指定重要文化財

岩瀬駅前土地区画整理事業 組合設立までの経緯

年月日	内容	場所
52. 5.27	町より区画整理予定地区関係区長を参集し、事業概要の説明及び推進について協議	役場
52. 9. 1 ～ 52. 9.19	各地区ごとに地権者を参集し町担当者より事業の説明をする	各地区公民館等
52.10. 9	関係区長と区画整理事業の今後の推進方法について協議	役場
53. 2.25	関係区長と今後の事業推進体制づくりについて協議	役場
53. 3. 4	関係区長と区画整理事業推進委員会の今後の活動方針について協議	役場
53. 3. 7	岩瀬駅前土地区画整理事業推進委員会設立（委員の推薦、規約の制定）	中央公民館
53. 3.20	町都市計画審議会開催（区画整理事業及びその推進体制について説明報告）	役場
53. 3.28	推進委員の先進地視察研修（元岩瀬地区委員）	石下町 潮来町
53. 3.29	推進委員の先進地視察研修（青柳、東区１、２、西区、地区委員）	石下町 潮来町
53. 4.18	推進委員会により事業予定区域の決定及び組合設立の同意のとりまとめについて協議	中央公民館
53. 4.19 ～ 53. 6. 2	組合設立の（仮）同意とりまとめ	
53. 6.14	町都市計画審議会開催（区画整理事業推進報告）	役場
53. 7.25	都市計画審議会、先進地視察（南部土地区画整理事業）	佐野市
53.12. 2	推進委員会（組合設立認可　申請者７名以上の選出について協議）	役場
54. 1.26	推進委員会（施行地区の変更について　組合設立認可申請者の選出について）	役場
54. 3.20	A調査（基本構想）実施	事業予定区域
54. 7.16	測量実施による土地立入についての公告	
54. 7.16 ～ 54.11. 9	区画整理予定地区立入調査、測量	
54. 9. 5	都市計画審議会（A調査結果報告）	役場
54. 9.19	推進委員会（区画整理調査、地区界測量について）	
54.10.11	推進委員会（地区界測量実施の説明会）	中央公民館
55. 3.18	推進委員会（区画整理基本計画及び事業計画（案）の説明）	役場
55. 3.26	推進委員先進地の視察	下館市 内原町
55. 4.19	都市計画審議会（基本計画及び事業計画（案）の説明）	役場
55. 4.24 ～ 55. 4.30	区画整理基本計画（案）の説明	各地区公民館
55. 6.17	推進委員会（組合定款（案）について）	中央公民館
55. 7. 4	推進委員会（同意のとりまとめについて）	中央公民館
55. 7.10	用排路の取り扱いについて（協議）	四ヶ村堰水利組合
55. 9.18	国道50号バイパスの取り扱いについて（協議）	建設省水戸分室
55.10. 6	農地の取り扱いについて（協議）	岩瀬町農業委員会
55.12. 8	桜川及び県道筑波ー益子線、地区編入承認申請	茨城県知事
56. 1.30	公共用地編入承認申請	岩瀬町長
56. 4.30	推進委員会（同意のとりまとめ状　状況報告と不同意者のとりまとめ方法について）	役場
56. 5. 6 ～ 56. 5.11	地元不同意者の同意とりまとめ	
56. 6.10 ～ 56. 6.11	地区外不同意者の同意とりまとめ	東京郊外
56. 7.27	県都市計画課による現地調査及び事務打合せ	役場
56. 8. 3	下館土木（調整池等について打合せ）	県河川課 及び都市計画課
56. 9. 4	50号バイパスの取り扱いについて協議	建設省
56. 9.10	旧河川用地について打合せ	県河川課
56. 9.25	推進委員会（現在までの経過報告）	役場
56.10. 3 ～ 56.10. 5	調整池について説明会	元岩瀬公民館 西区公民館
56.10.16	調整池等について視察研修	牛久町
56.10.19	事業計画について打合せ	県都市計画課
56.10.20	調整池について現地調査	県河川課
57. 3. 8	岩瀬駅前土地区画整理事業　都市計画決定	建設省都市局
57. 3.29	岩瀬駅前土地区画整理事業認可	建設大臣
57. 4.19	組合設立認可申請提出	県知事
57. 6. 8	町にて組合設立及び総合議案件について協議	役場
57. 6.15	推進委員会（組合設立及び総合議案件について）	役場
57. 7.29	岩瀬駅前土地区画整理組合設立認可	茨城県知事
57. 8. 1	岩瀬駅前土地区画整理組合設立総会	

未来に拓く街
岩瀬駅前土地区画整理事業のあゆみ

平成４年３月

発行／岩瀬駅前土地区画整理組合
編集／テック商事株式会社
製作／株式会社クリエイティブ・コア・エージェンシー

岩瀬町立西中学校

未来に拓く街

岩瀬駅前土地区画整理事業のあゆみ

未来に拓く街

岩瀬駅前土地区画整理事業のあゆみ

岩瀬駅前土地区画整理組合